

# 第13回文化祭



# 西中国山地ステップ会議

1984 11.4



# クリエイティブふるさと

1984 11.23

3 and 15



# メッセージ

— 未来に向けて —



広島のリーツは蘇生する。  
弥生時代、吉和や戸河内の古代人  
たちは、広島の牛田山居住地へ石  
器の原石を運んだ。そこから広島  
の文化が始まる。

1589年4月、吉田の毛利輝  
元は太田川の川口に点在する寒村  
五箇荘に築城の“クワ始め”を行  
って、デルタが「広島」と命名さ  
れた。もう間もなく400年にか  
ろうとしている。

いま、そのリーツの15ヶ町村の  
マチやムラで秋の神楽が舞われ、  
春に向けて青年達の胸は騒ぐ。

広島修道大学教授

白 隈 健 王

## はじめに

第13回文化祭も数多くの思い出を残し幕を閉じました。中でも近隣の15ヶ町村の青年が集まった「キラキラの生き方」を求めた西中国山地ステップ会議、そして、その第一ステップとして、衆議院議員の三氏を招いての「クリエイティブふるさと3and15」は、私達の心に残っています。

これらは、私達のふるさとの未来を考えたり、自分自身をみつめたりする上で大きな役割をはたしました。この大きな行事の成功や行事を行うまでの過程は、私達のふるさとの未来を考えさせたり、自分自身をみつめる良い機会でした。

このような活動が、少しでも町の盛り上りや、今後の町づくりに役立てばと思っています。

この企画が、今後の青年会活動や地域づくりに少しでも活かしていければと、今回この冊子をつくりました。ご利用いただければ幸いです。

目	次	ページ
◎ 経過報告	-----	1
◎ 西中国山地ステップ会議	-----	9
◎ クリエイティブふるさと3and15	-----	33
◎ メッセージ	-----	76

いままで  
自分の所だけを  
考えてきたような  
気がする

ただ  
それだけじゃ  
ふるさとはよくならないと  
気がついた

西中国山地の若者たち  
ふるさとのことを一語に考え  
燃えた

そして  
何かか 五手小たような  
気がする  
その何かを こゝから  
そっとあたためていきたい

わたしの“ふるさと”のために  
わたしの“未来”のために-----

今未来感

昭和59年度

文化祭行事及びクリエイティブふるさと3and15

文化祭実行委員会

西中国山地ステップ会議準備日程

6月12日	第1回	8/27	日隈健壬先生学習会
18日	2回		広島県第一区選出衆議員議員による
7月16日	3回		パネルディスカッション(起案)
23日	4回	9/19	同案の提出(議員宛)
30日	5回	24	15カ町村シンポジウム(起案)
8月6日	6回	27	15カ町村に呼びかけ
17日	7回	28	15カ町村青年会議(千代田)
27日	8回	10/2	同(大朝)
31日	9回	3	15カ町村担当者会議(文化祭)
9月5日	10回	11	広島県第一区選出衆議員議員による
10日	11回		パネルディスカッションの依頼の提出
17日	12回		(議員宛)
24日	13回	16	15カ町村青年会議(吉田)
10月1日	14回		西中国山地ステップ会議と命名
8日	15回	20	ドライブインシアター(行事)
15日	16回	23	西中国山地ステップ会議(千代田)
22日	17回	24	クリエイティブふるさと3and15
29日	18回		(承諾書受理)
11月5日	19回	11/3	西中国山地ステップ会議
12日	20回		(パネラー会議)
16日	21回		ナイトウォーキング(行事)
19日	22回	4	当日祭 西中国山地ステップ会議
			テーマ キラキラの生き方
		8	演芸の夕べ(行事)
		10	寄せ鍋コンサート(行事)
		22	クリエイティブふるさと3and15
			(リハーサル)
		23	クリエイティブふるさと3and15
			(行事)

7月16日 第3回文化祭実行委員会

過去の文化祭を振り返り、第3回文化祭の方向性を模索して行く中で、「千代田を考える」という事で、テーマ「原点」で行なっていた。

私達も未来(夢)過去(現実)を考える事は多くても現在(現状)を考える事は少ないのではないか。それは、「町外の人の方が客観的に判断出来るのでは」といった意見から、外から千代田を見るという考え方が出る。

7月23日 第4回文化祭実行委員会

千代田の文化、土地柄について話し合い。そのとき、今まで町外に住んだ事があれば、その頃自分達の目に映った千代田町についての感想を発表する中で全体的に千代田町は、位置的にも、文化的にも中途半端ではないかといった結論が出る。

7月30日 第5回文化祭実行委員会

文化祭の方向性について見直し。「外から見た千代田」ということで近隣町村と意見交換の案が出る。

8月6日 第6回文化祭実行委員会

「現実をふまえた上で未来を考えて行こう」。一文化祭の方向性一決定。青年学級と共催で「外から見た千代田」で講座を行う案が出る。(大学教授、または広島市当りの会社社長を招き討論会型式で行うもの)

8月17日

青年会同学級で修道大学日隈教授を招く事を決定。

8月27日

修道大学日隈教授を迎えて討論会。

文化祭において、未来性のあるものにするという事で、千代田に国会議員を呼んでパネルディスカッションを行なうかどうかという案が出る。

8月31日

国会議員を千代田に呼び、パネルディスカッションを開き、千代田町のアピールを行う事決定。

9月5日

パネルディスカッションの方法について見直しを行う。

9月10日

文化祭行事、日程決定。

国会議員とのパネルディスカッションは、11月4日に予定。その位置付として、青年のアピール、千代田のアピール、10年後の文化祭に継ぐ、千代田町の30周年。

企画としては、千代田の単独でなく、近隣町村にも参加してもらおうことを確認する。

9月17日

各行事担当者決定。文化祭テーマ、「メッセージ—未来に向けて—」決定。

9月27日

「国会議員」の日程、11月23日に決定。11月4日当日祭において、山県郡、高田郡、島根県の瑞穂町、石見町の15ヶ町村でパネルディスカッションを行う事決定。

9月28日

15ヶ町村青年会議。(千代田)

10月2日

15ヶ町村青年会議 (大朝)

10月16日

(吉田)

9月28日 15ヶ町村青年会議

千代田町中央公民館大会議室において開かれた初の15ヶ町村青年会々議には、広島県高田郡より、高宮町、甲田町、吉田町、美土里町、山県郡より、加計町、戸河内町、筒賀町、芸北町、豊平町、大朝町及び千代田町、島根県邑智郡より石見町、瑞穂町の各種<sup>若</sup>青年会、公民館主事、総勢50名により、開かれました。

呼びかけはしたものの、何名程度参加してくれるか、一抹の不安があった中で、千代田を含め15ヶ町村の参加があった事は、大いに励みとなりました。

さて、会議の方は千代田青年連合会、長より、「11月4日、文化祭当日祭において、芸北地域、それを越えた農山村のシンポジウムを開きたい」と説明が行なわれた。自己紹介を兼ね、各町村の概要報告から始まりました。

まず、千代田町より現在の青年会の活動、文化祭への取組みが報告され、そして、各町村毎に現状問題点が出されました。

15ヶ町村ともなると状況は様々で色々な問題課題が出されました。中でも「青年の活動そのもの無い」(戸河内、高宮) 戸河内町は青年ではなく青年の組織をつくるために世話をされている38才の栗栖さんが代表として参加していた。「会員がいない」「会員はいるが参加が少ない」(豊平、美土里、石見)「青年会ではなく、グループ活動で男子の参加が少ない」(吉田)「女子が少ない」(加計)といった状況で、全体的に見て活動が停滞気味であり、原因としては参加者が少なく行事その物が、



企画出来ない感じでした。

そこで、千代田町青年会々長より、オは回文化祭「メッセージ」—未来に向けての中においての取組として、私達が住んでいる地域をより良くしようとしても、周辺の町村を無視しては考えられない。しかし現実には、次のような問題がある。

1. 車や電話が有るのにあまり交流がない。
2. 東京のことは、情報として良く知っているのに隣の町の事は知らない。
3. 農村として共通した問題点がある。
4. 1つの町よりも、少しでも多くの青年で考えるべきだ。

このような現状の中で、地域や青年が少しでも向上出来たらと思ひ、このシンポジウムをやりたい。と提議されました。

また、千代田町青年 台会事務局より、『我が町ばかり考えていたのでは良い事にならない。現在、中国山地という三次、広島県北当りが出て来る。それに対して、この周辺は日陰になっているのではないか。今までは、お互いただの通行人で終っていた。これを機会として、全国にアピールしたらどうだろうか。それを最もバイタリテスーの有る青年の手によ、てや、て見ようではないか。』と提議が行なわれた。

今後の方向として、

- ・当日(11月4日)までに2回程度話し合を行う。
- ・シンポジウムでは、10年後のこの地域の話しが出来るとはなないか。
- ・11月3日、千代田町主催「芸北地域の明日をよむ」(竹下県知事出席) 11月4日、「青年のシンポジウム」 11月23日「国会議員を囲んでのシンポジウム」を一連の企画としてつなごたい。その中で、青年の考え方、これからの芸北地域といった問題をぶつけて行きたい。との提案がなされる。

豊平町、「堤岸主催の『明日の茨北地域を考える』が毎年行なわれているが何を話し良いのかわからない。出来れば、田舎を魅力的に話されるシンポジウムにしたい。」

加計町、「シンポジウムだけで終わらずに、連絡会を作り、くだけた形で話しが出来たら良いと思う。その中で意見が盛り上げてシンポジウムが出来ればすごい事だ。」

石見町「集まる事が一つの刺激となる」

筒賀村「色々な問題はどこも持っている。このままシンポジウムに持って行って結論が出ないのでは」

戸河内町「あまり焦らずに一歩一歩進めて行けば良いのでは」と言った意見が出た。石見町、大朝町の提案により次回同じメンバーで10月2日、大朝町民センターで15ヶ町村の青年会議を行うことを確認しました。

#### 10月16日 西中国ステップ会議（第3回）

吉田町文化創造センターにおいて、第3回15ヶ町村青年会議を前回の太朝町において決定した事に基づき「西中国ステップ会議」と名称を改め広島県高田郡より、地元吉田町をはじめ美土里町、山県郡より、加計町、筒賀村、茨北町、豊平町、千代田町、島根県邑智郡より石見町、計9ヶ町村53名の青年達が参加し開催されました。

西中国でも、南部で開催したこともあって、参加が心配されたのか、以外と高根県の人達には距離的には、千代田町よりも近かったこの事、また、会場となったホールも新らしく、また面白い建築様式で、それにもまして、何と、お菓子付き、コーヒー、お茶のおかわりも有るという地元吉田町の歓迎など、びっくりすることばかりの中で、もうお互い顔見知り、リラックスムードで話し合いが始まりました。

11月4日の当日まで、残り半月といった状況の中で、今回で

ある程度テーマを絞って行かなければならない。今回は、今までの会議のまとめから入りました。

その中で、第1回目の会議(千代田町にて)の感想としては、各地域の問題を中心に話し合いを行なったが「内容については良く理解できなかつた。」(美土里、吉田、筒賀、大朝)といった状況でした。

また、第2回目の会議(大朝町にて)については、「日隈先生に励まされた。」(筒賀)「色々自分達の問題について考えた。」(大朝)「私達の問題と一致しない。」(吉田)「何かが、出来そう。」(美土里)といったように、様々な感想が出される中で、今回、司会進行役の千代田町伊勢坊さんの方から、「今、僕達は何故この土地に住んでいるのだろう。また、仕事以外で充実していると感じることがあるだろうか。前回のテーマ「キラキラの生き方」をしているだろうか。」と問題提起があり、それについて討論する中で、(美土里)「この土地に生まれ、他にいく所がない。」(豊平)「一人暮らしが出来ない。」(吉田)「長男だから」といったように、やはり、自分達の意志よりも親とか家とか、周囲の環境に流されて、暮らしている面が、浮きぼりにされ、また、「充実」といったことでは、「遊んでいるときと寝ている時」(石見)、「干渉はいつもあるが、それをやる行動力が無い。」(美土里)「青年会、神楽など全部がまざって何がなんだか分からない。」(豊平)「暇ではないが充実感がない。」(筒賀)、「遊びも、後考えてみると満たされない。」(加計、吉田)、と言った意見の中、「自分達が頑張れば、もっとこの土地を良くする事ができるのではないか」「自分達の人生を大切にしたい。」(豊平)、と言う意見が出されました。

そこで、11月4日の当日には、それぞれの地域の自分達の立場での生き方をテーマに、どうしたら「楽しい生き方が出来る

か」を明らかにして行くことを中心に話し合うことを決定しました。



# 西中国山地ステップ会議

——キラキラの生き方——

コーディネーター 日隈健壬（修道大学教授）

パネラーの青年達 山県郡

大朝町 芸北町 戸河内町

豊平町 筒賀町 千代田町

加計町

高田郡

美土里町 高宮町 吉田町

八千代町 甲田町 向田町

島根県

瑞穂町 石見町



私たちは「ふるさと」という言葉に愛着と安らぎを感じ、文化祭の中でそのことを考えてきました。

今住んでいるこの町を、よりすばらしい「生きる場」とするため悩んできました。しかし、これは限られたものであり、まだ自分で自分たちで気づかぬことが多いと思います。そんな中で私たちの回りを見つめてみると、一つの大きな流れの中に同じ文化と生活を背負って立っている若者がたくさんいます。この若者たちが一緒になり、積極的により広域的にふるさとを考えることができたいだろうか、西中国山地の15ヶ町村の若者が集まることにより、もっと広域的に生活の空間を考えることができたら、そしてこの機会を通じて飛躍できるなら、すばらしいことではないでしょうか。私たちは、今日の15ヶ町村のパネルディスカッションを「西中国山地ステップ会議」と名づけてきました。若者が今何を思い、何を悩んでいるか、語りあう中で地域やふるさとをみつめ、自分自身をキラキラと輝かせる生き方とは何か、求めていきたいと思います。

#### パネラー紹介

島根県 (石見)

高田郡 (美土里、甲田、吉田)

山県郡 (芸北、戸河内、筒賀、加計、豊平、大朝、子代田)

コーディネーター

日隈先生 (広島修道大学助教授、地域開発論)

(日隈)

集団見合です。皆さんの中からおの人とちょっと話かしてみたいと思う人がいたら質問してみてください。と水だけ農業に熱意があるか、あるいは自分の町や村に魅力を持っているか、

今から話し合っ、ていきます。昨日も知事が話してましたが、千代田町が芸術地域の中心的役割を担っていかなくてはならない、と言っていました。青年たちは知事や町長が言う前に、時代が地域を活性化させている、そういうことと感覚でとらえているんですね。こんなふうには各々町村の青年が集まってくる。あるいは集めて来ていただくほどのリーダーシップを、千代田町の青年が持っていることが、今日のワークショップ会議を実現できたんじゃないかと思います。それではみんな一人一人に発表してもらい、話しを聞いてみたいと思います。

西中匡山地というの、いろんな条件でいろんなもんが違います。今日は、ずいぶんいろんなところから来ます。それそれ若い人たちは共通の遊び、共通の悩み、共通の夢を持っています。どんな遊びをしているのか、それを台本どおり芸術から聞いてみましょう。



(芸北)

遊びといえは、マーゲームとかパチンコとか、いろいろあるんですが、今日はそういうんじゃないくて、僕たちが本当に好きでやっている遊びというのを考えてみたいと思います。

僕たちは神楽団にも入ってませんし、あんまり好きないことがないんです。無趣味に興味みたいなものです。今回千代田町では、石坪君がリーダーとなってこんなすばらしい文化祭をやってもらえる。僕もそういうことが好きなんです。企画の段階で

ろいろもめるんじゃないかと思えます。でも、そういうことが  
出て来る人間には本当に楽しんでますね。今まで僕たちも経  
験してきたんですが、本当に楽しかったです。あとから思うと  
青年が集まっていろいろもめながら行事を企画することを通し  
て一つの布が生まれるというのが遊びの原点じゃないですかね。

(日 隈)

話を短かくまとめる人は頭のいい人、話の長い人は頭の悪い  
人です。これからどの人が頭がいいか悪いか、みてみまし  
ょう。

それでは、一番西にヒビましたので、今度は一番近くにいっ  
てみましょう。最近の生活はどうか。

(美 エ 里)

最近の遊びというと、テレビとかパソコンとか、個人的遊び  
が多いんですが、美エ里町は、できるだけ仲間を作ってみんな  
でワイワイ飲んだり、ドライブしたり、何でもいんですが、  
“こいつ何を考えてんのかな”ということを知ろうと、なるべく  
友達をつくらうという感じですよ。

(日 隈)

それでは奥の方について、知事も言ってますが、縦貫や横  
断道が通ると裏の方も子代田が玄奥になります、同じ仲間の石  
見町についてみましょう。

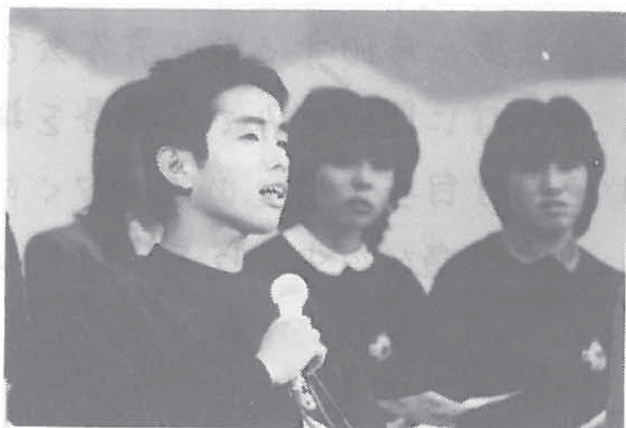
(石 見)

遊びというと、個人的にはドライブしたり、観光地を歩い  
たり、雑談したり、酒を飲んだり、マージャンしたり、いろい  
ろありますが、青年会でいいますと、夏には海水浴、キャンプ  
各行事の参加とか、それを通じてワイワイやります。いじか  
るのでドライブ、観光地巡り、そういって、たところですよ。



(日 隈)

それでは、地元にいります。



(十 代 田)

酒を飲んだり、マージャンをしたり、ソフトをしたりという  
のが、遊びなんだと思いますが、複数で遊ぶということがある  
と思います。やっぱり青年会の中でソフト、バレーをしますが、  
この文化祭のいろんな行事を企画する、これもひとつの遊びじ  
ゃないかと思います。

先程も言いましたように、その企画の中で、いろいろなことを  
考え、議論したり、けんかをしてコミュニケーションにな  
り、情報を生み出してきて、僕たち個人の意識の向上になり、  
それが遊びになるんじゃないかと思います。

(日 隈)

連帯する、仲間づくりをするためのステップだ。遊びがコミ  
ュニケーションのステップになるになるということと言いました。  
そういうふうに遊びには一つの目的みたいなものがある  
と思います。たぶん農山村では、若い人達は少ないから、一人  
で遊ぶより二人、二人より三人と仲間づくりのために遊ぶので  
はないかと思います。

甲田町の人、いかがですか。

(甲 田)

青年会を通じて、ふれあいというものを求める。一つの仲間づくりを求めていくというのが遊びの中からできてくるのではないかと思います。本日、この会議に参加する前に青年会で話しをしたんですが、やはり、みんなに聞いてみても青春を謳歌してみたい。この遊びを通じて自分自身を見つめて、多くの人と語り勉強していきたいというのが遊びの中から見い出せるのではないかということでした。

(日 隈)

ずいぶんまじめに取り組んでますね。戸河内はどうですか。

(戸河内)

家で寝ているのが遊びじゃないと思うんです。みんなで何か一緒にやったという、それが一番充実感につながる遊びだと思います。

(筒 賀)

青年会を通しての遊びというと、海水浴とかキャンプとあるんですが、それ以外となるとまわりの近所の人や、同級生と遊ぶ。若い人が少ないため本格的に遊ぶとなると、広島に出て遊ぶということになるんですが、これが唯一の問題、これからの課題だと思っています。

(日 隈)

筒賀の人は、吉田がどこなのか、吉田の人は筒賀がどこなのか知らないんですよ。広島には近いのですが郡内の地理には本当に不慣れという状況なのですね。

(大 朝)

大朝では個人的には音楽のバンドをやっているんですが、まあ、たいしたことはやってません。小さな町なのに青年同志で知らない人がいるんです。青年会が一つの知り合う場として酒を飲

おだけでもいいと思うんです。

(日 隈)

少ない青年の数でもって未来というか、近い将来のため町づくりのために 仲間づくりをしていろというのがよくわかるんですが、それでは豊平町に聞いてみます。具体的に仲間づくりというのが今必要な時期なんじゃないかな。

(豊 平)

必要だと思います。なぜ仲間づくりをするかという、やっぱり一人で生きられないことがあると思うんです。たとえば、バレー、ソフトとかいうのをきっかけとして仲間をつくっていく。そして一つ一つの遊びが楽しい思い出となるような遊びがあると、次の段階に進んでいく。たとえばバレーがうまくなかったから次はもうしなくなる、そういうふうに楽しい遊びを通して、後々につなげていくというのが仲間づくりになるんだと思います。

(日 隈)

豊平の場合、いくつかの谷で分れていて別の谷になるとほとんど行ききがないんです。だから、全町をあげて何かをするということが非常にむずかしい。そして豊平は伝統的に加計とうまくいかないといわれています。本当ですか。

(加 計)

仲間づくりをなぜするかというと、自分が楽しんで満足するために友達、仲間をつくって遊ぶんじゃないかと思います。仲間をつくればいろんなことが出来るし、いろんなメリットがあると思います。豊平と仲が悪い、ということは聞いたことがありません。

(日 隈)

西中国山地の中心の町は、縦貫が開通して今は、千代田だと

言ってもみんな賛成していましたが、それでは以前を中心だ、  
た吉田はどうですか。



(吉田)

今一つ、県北地域でかなり「過疎を逆手に取る会」で有名になつてます。その県北地域と芸北地域のちょうど谷間で本当に中途半端な吉田町だと思つてます。田舎というか、昔ながらの青年団というものが残っていないし、かといって都市のいわゆるサークル活動が活発でなくて、どちらにしろ今、中途半端に活動しています。やはり、小さなサークルですけど、自分達が企画して、町のみなさんに文化という面で過疎地ですが、その中で生のものになんでも触れてみていただきたいと思ひ、8人のグループでいろんな文化活動を中心にした企画を進めています。それにより、企画をした側も満足し、仕事では得られない喜びだと思つています。

(日隈)

吉田は、女性が強いところだと誰かが言つてましたが、サークル活動も女性中心が多いですね。それでは、台本どおりに最後は千代田にいきます。

(千代田)

仲間づくりが、なぜ必要かというのですが、若者で何かしをいなと一つも思うんです。この15ヶ町村が集つて、3、4回話をした中でも、やはり、何かしたいというんですが、それ

では具体的に何をするかは、決まらない。青年会が思っていることは、少しでも地域の文化を向上させていこう。文化意識を向上させていこうということです。文化祭が、オ1回からオ13回。その中で広響を呼んだりして文化の向上をはかっていくということできろいろやっています。そういう意味でも、やはり、仲間が集って少しでも何かをやっていこう何かをレベルアップしていこうということで、みんなでやっていけば何かいいものができるんじゃないかということ仲間づくりが必要じゃないかと思うんです。

(日 隈)

これで一巡しました。それでは、10年後はどうか、聞いてみましょう。

(美土里)

若者は、連帯して一つの町という単位でなくて、山県郡、高田郡、芸北地域という形で、いろんな活動ができると思います。しかし、町がまとまるかという政治家とか、お年寄りの考えることでよくわからない。行政の方では、農協森林組合等、いろんな団体は現在広域化が進んでいるので、山県郡、高田郡といったような大きい行政区になるかもしれない。

青年は、大人と違って自由です、やりたいことはみんなで行いたいですから、広域で交流していけるとと思います。

(甲 田)

甲田町は、三次経済圏ですので三次にひっぱられていく。若い人は、いつの時代でも“青年は青年”で自由に動いていく。

(加計)

加計町は、中国横断道からはずれたので益々過疎化が進むと思います。それでもなんとか加計町は加計町で残っていると思っ

ます。

(石見)

病院もでき、若い人もボクボク帰ってきて、今まで川本町方面が中心だったが、これから石見が中心になる。

(筒賀)

町村の合併問題がでてくると思います。筒賀は加計。戸河内に囲まれているので、加計、戸河内にひっぱられていくと思います。

(日隈)

筒賀は人口4人ちょっとですぬ。10年後はどうなっているか一番興味があります。

(芸北)

行政面では今の単位のままだと思います。というのも因習で、となりの村に負けてたまるか、という考えがヘッドの方に残っているので、一緒にやろうということはないと思います。経済面・文化面ではより広域的になると思います。またやはり強い所が何をすることも勝ち、やはり弱い所が負けて消えていくということを理解していかななくてはならないんじゃないかな。

(日隈)

その強い、というのは経済的というよりもそのリーダーの頭の強さ、でしょうね頭が弱いリーダーがいたら弱い町なんでしょうね。

(芸北)

頭だけでなく取組かたの姿勢だと思います。

(戸河内)

この辺の町村は広域的に合併されていると思いますが、戸河内は合併はしていますが面積はほとんど変わっていない。ですから10年後、青年はこういった場に出て、となりの町の人と付

き合うけども、今の町政をにぎっている人はおそらく10年後も変わっていないでしょう。そういった人達の頭の中に“となりの町に負けてたまるか”という地元意識が強いので、行政区画はおそらく今のままでしょう。でも経済面ではやはり働く場所、金を持っている町村が強いですから、その町村にひっぱられると思います。そしてこれからは膨大な土地を持っている菟北町が裕展し、戸河内・加計・筒賀はひっぱられていくと思います。

(日隈)

かなり西側が優勢になってきましたがそれでは衰退する東側から。

(吉田)

今考えてみたんですけど今の吉田は10年前とそう変わっていないんですよ。たぶん10年後も変わらないんじゃないかなと思ってます。それから先程の劇を見て千代田市が出てましたが、ひょっとしたら千代田市・吉田区になっているんじゃないかなと思いました。

(千代田)

10年後の千代田は工業団地ができ、新ダイワやモルテン等入ってきており、ロボット化で雇用は少なくなるかも知れませんが、地場産業はそれなりに裕展していると思います。今千代田は1つになっていると言われますが、選挙をしてみると川戸が八重がということで、固まっていると思うので10年後は千代田は1つの目標の方向に何か1つできるような方向を見いだしてもらいたい。県知事が言われた「広域的に考えていかないと、いろんな事業が進まない」ということなので青年が15ヶ町村集まって、何かをしようと考えているように、これからは広い視野で物事を考えてほしい。

(日隈)

10年後も議員さんたちは変わっていない感じですか。

(大朝)

よくわかりません。中山がよくなってきたのでどう町民に影響を与えるかわかりませんが、工業団地もできそれなりに頑張ってきたので今のままでいくと思います。

(日隈)

私は先ほどの戸河内のように“土地が広ければ強いだろう”という考えはおかしいと思います。土地が広ければ強いのならロシアは最強です。しかし、小さい日本も強い。土地条件をいかに生かすか、住む人の知恵だと思います。それでは後に座っている応援団に聞いてみましょう。今あなたの町で一番大きな(大切な)問題は何でしょうか？

(千代田)

若い人がもっとたくさん帰ってきて活躍しなくてはならないと思います。それに大きな病院がないことは不安です。



(筒賀)

地元で働く場所がない。働く場所があればそれなりに人が増えるのではないかと思います。



(日 隈)

それでも筒賀は山持ちが多いからお金をたくさんもっているでしょう。

(筒 賀)

今、材木の値が安いからそうでもないです。それよりももっと若い人に帰ってきてほしい。

(筒賀 女)

茶道を教えている人がいないので、となりの町に行ってます。そういった文化が遅れています。

(筒賀 女)

高速道路等ができ、先進技術が入りこんでますが、それがいいのか悪いのか、また婦人会・老人会などの交流の機会が少ないため世代格差がある。

(筒賀 男)

人口が少ない。土地がせまいので酪農とか規模が大きくできない。

(石 見)

去年の水害復旧ではいろいろなことも考えさせられました。これからは広島県と産業を結ぶことのできる道路を早急に作る必要があるように思います。

(加 計)

人口が少ないし、……若い人が帰ってこれる態勢を作ることでしょう。

(豊 平)

働く場所がないから若者が定着しない。

(豊 平)

他町村にアピールできる誇れる場所がないし、また遊ぶ所もない。

(豊平)

大きな産業がないし、ショッピングセンターもない。

(日隈)

湧永薬品ののような世界的なバイオの工場があり21世紀は甲田町の時代といわれますが、どうですか。

(甲田)

若い人が町へ出ています。芸備線が通っていますが広島へ通勤しようと思っても1時間半かかるのでできない。また単線なので複線になればいいなと思います。そして青年会が地域で認められていないのでボランティア活動を通して認めてもらっていいこうと思っています。

(日隈)

次は日本で一番南のスキー場がある芸北町です。冬場の2ヶ月で60万人のスキーヤーが来てますが……

(芸北)

町が生きていくための一つの道が決まっていな。つまり農業で生きるか工業で生きるか、中途半ばな状態です。一方では(農業で)野菜で何億と売り上げているんですが、もう一方では昨年観光協会ができましたして観光業に乗りだそうという感じで、農業だけで生きていくというのには不安がありますがとにかく早く道を決めてほしいと思っています。

(石見)

道でも、私たちのところは、道路が狭くて困っています。冬には雪で道も悪くなります。たしかに広島からの交通面はよくないです。もっとよくなれば企業でも入ってくるんだと思います。若者がかかえている問題といえば、後継者としての問題があると思います。青年会としては活動を石見町に認めてもらって、町外に出ている人が、石見町の青年会も頑張っている。

自分もその中に入って石見町のために頑張ってみようかという気持ちを持って帰ってきてもらえれば、人口もふえると思うんですが。



(日隈)

ここで皆さん方の属性を聞いてみましょう。長男・長女の方手を上げて下さい。

(日隈)

あれ、高賀の人だけが長男じゃないんですね。

(高賀)

次男です。

(日隈)

どうして残ってるんですか？

(高賀)

高校から市内に出てたんですが、あくまでも個人的理由から  
もどってきました。高賀といったら、みなさんが思われているよ  
うに、山を持って来るから金持ちというふうに思っている人が、  
多いようです。高賀といっても、他に目をひくものがないで  
す。観光にしても、目をひくものがない。これといって、パッ  
としたものがない。魅力のないところなんです。

(日隈)

後に座わっている女性に聞いてみますが、町内でお嫁に行く  
気はないですか？

(高瀬)

地域は考えません。やはり相手しだいです。

(日隈)

村内の子供は育てますが、夫と一緒にここで育てたいという気持ちはありますか？

(高瀬)

はい。すばらしいと思います。

(豊年)

豊年といふんじゃないんですが、職業を続けたいという気があるの、できれば近くに嫁ぎたいと思います。

(日隈)

今までの話を聞いて、千代田の会長としてはいかが、まどめられますか？

(千代田)

各町村ごとに、いろいろ問題点があると思いますが、やはり千代田でも働く場所がない、といふのも市内で働いている友達に、“千代田へ帰って来い”と言ったら、“帰りたいけど働く場所がない”とまどめ言います。働く場所を作ってほしいです。

(日隈)

働く場と言ふのは、具体的にどういふことですか？何でもいいといふわけじゃなくな。たわけですか。カッコいい職場がないとダメなんですか？

(千代田)

安定した職場に帰りたいといふことだと思います。私は、まだ結婚は考えていませんが、その時になって決めますが、今は近くがいいと思ってます。神業ができる所だといふですね。

(日隈)

さて、この15ヶ町村は千代田が、独断と偏見で集めた会議が

んですけど、それなりに悪のりしてくれた人達が集まってくれました。次に、この15ヶ町村をどう生かしていくか、15ヶ町村の青年が集まるといふのは、これからこの会をどう生かしていけば、俺もまだつき合う、といふことを聞いてみましょう。



(美土里)

地域で青年会をやっている人といふのは、現在、限られているわけなんですよね。参加してくれと言っても来てくれない人もいて、それぞれ地域でいろいろ悩みがあって、なかなか一人や二人で解決できない。ストレスがたまるということと、同じ悩みを持っている人が集まって強く生きていこうと、もっていけば力の強いもので、いろいろなことができるのではないかと思います。若いものしかできないこと、楽しいことをゆかいにやっていたら、もっともっとすばらしいものができていくのではないかと思います。

長男といえば家の跡をとらなくてはならない。運命づけられた、どうしても変えることのできない、親とか地域の期待がかけられている。だから、都会に比べると娯楽とか少ないわけですが、逆に考えると隣のやつが気になって、何を考えているのかなといふことでつながりを持つというふうになりやすいのではないかと思います。

(日隈)

先ほどの劇で、おじいさんがえらく家族の中で迷惑がられて

ましたけども、長男としてどう思われましたか？

(加計)

私としては、お年寄を大切にしていかななくてはと思っています。  
また、浜田に抜ける191号線に囲まれている形で加計がありますから、横断道ができたら通勤していた車やトラックが通らなくなり、またバイパスができますと町の中がさびれてきますし、過疎が進むのではと思います。

(日隈)

戸河内では、この15ヶ町村が集まって連帯するというのは、メリットがありますか？

(戸河内)

今まで知らなかった人を知ったという広がりが出てきて、話を  
していくうえで自分を向上していくという、目に見えないメリ  
ットがあると思います。

(日隈)

15ヶ町村を集めた千代田、もっと何かたくらみがあるんでし  
ょう？

(千代田)

15ヶ町村を集めて何かをしていこうという発想の中には、立  
化祭なりいろいろな青年会の行事をして、地域の問題を考えて  
いくという目的がありました。今の千代田の青年だけで考えて  
も何かええことにならんということで、それでは陰陽広域でや  
ってみようということで、話をしたんです。もしあると、もし  
ちょっと広げてみないかということで、15ヶ町村になったわけ  
です。これから、15ヶ町村をどのように発展させていくかとい  
うと、11月23日に広島一区の総議院議員3名に来ていただいて、西  
中国山地の明日を考えるという題で話をしていくわけですが、  
その話の中で西中国山地の青年の事を考えたり、この15ヶ町村

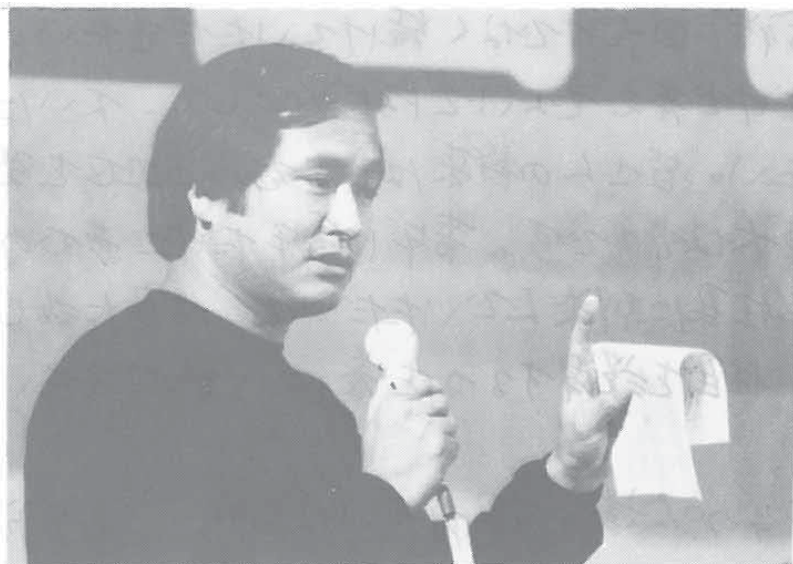
の共通点を探してそれを解決していく場、その機会にしていき  
たいと思います。

(坂本)

私は公民館で子供文庫の世話をしています。婦人会も青年会も同じことが言えると思いますが、この会議に出席されてる方は、すごく勉強にもなるだろうし、感謝されるだろう。内面的に大きくなると思いますが、末端の人は青年をまだまだ知っておられないだろうし、青年会にまだ入っておられない方にも少しづつこうしたことが浸透していただくように望みます。これから結婚されて生活していく中で教育面でも生活面でもむずかしいところがあると思うんですが、三世同居についてどう考えられていきますか？

(千代田)

今はあちんと一語に住んでいます。でも今は結婚しても同居したいと思いますが、現実はどうなるかわかりません。



(日隈)

子供が生まれて小さい時はお年寄りには便利だけど、子供が一人で遊びに出るようになってきたら面倒くさくなるんじゃない。

(子代田)

仕事柄家庭内の問題を聞きますが、問題を起しながらでもその人一人が成長していかれるわけだから、やはり家の中で接する人が多ければ多い程その人、人間は大丈夫になっていくのではないかと思います。

(子代田)

10年ほどくらべて女性が強くなっているとはいい、二つから今と変わらない状況だと思いますので、結婚して離れても、落着いたらもどって来るんじゃないですか？

(輪田)

私は子代田町行政委員会委員をやらせてもらっています。皆さんはそれぞれの地区代表であり、リーダーであるわけですが、皆さん方は将来あなた方の地区の世話もする。他の町村のものには世話をしてくれません。皆さんここに住んでいる者が、責任を持ち発展してここに住んで骨を埋めなければならぬ方々だと思います。こうした時にこういう集いが出来たことは非常に強いと思います。今後一回だけでなく続けていきたい。といっても自分の祈りだけで考えてはいけません。大いに世間を応援してもらいたい。皆さんの将来はそれぞれの地区を発展させていただけると重たい方々です。青年は青年だけで歩むのではなく、一人でも住民に馴染んで、いただいて、住民に話しを聞いていただいて、住民を説得する力を養っていただきたい。

(田原)

この15ヶ町村ステップ会議の成果みたいなもの、二つから進めたい期待みたいなものを言ってもらいましょう。

(子代田)

僕はいろいろな人達と文化祭を作り上げていきたいと思っています。これから進めていきます。このステップ会議を開き、広域的に視野



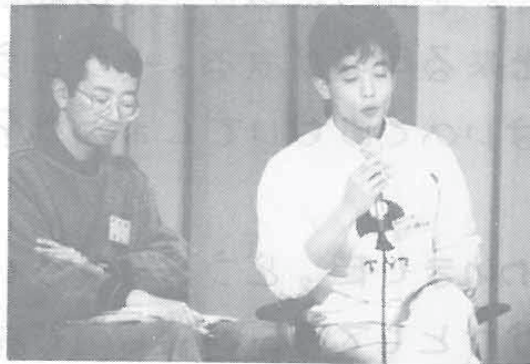
を上げていこう。そして交流をして何か一つでもつかんでいこうということになりました。これからも15ヶ町村の青年会でも何かイベントを組んだり、集ったり遊んだりして行きますので宜しくお願ひします。

(田隈)

千代田の青年会の主催するもの、あるいは青年会を播かす見守ってくれている地域の長達との連帯の中の風景を見て「あうらやましいな」と思ったりすると思ひますが、最後に千代田の青年会に、この15ヶ町村連帯に期待するという、教訓をお聞かせ下さい。

(豊平)

いろいろな意見をいただきました。改めていい加減な事はしてられないと思ひました。自分達の出来る事でも、遊びの方からでも皆んなで手をとり合つて楽しくやっつけていけばいいんじゃないかと思つてます。



(大朝)

千代田の青年のエネルギーを吸収しながらもやって行きたいと思ひます。千代田にはそして西中国山地という広域のリーダーシップを取ってもらいたいと思ひます。

(美土里)

僕達に「地域の為貢献してくれ」という期待をかけられているわけですが、僕達に何が出来るのかと考えると僕達は変に

必ずかしく考えないで、なるべく楽しくボランティア活動、地域の必ずかしい問題・同和問題、何をやるにしても若者が参加するような、楽しい場を行政とか一諸に作って、楽しく手を取り合って頑張って行きたいと思います。

(日隈)

老人会、高齢者学級の出席率はよいですよ。婦人会も結束力とか拘束力とかあって参加率は高いのですが、それぞれ組織間のつながりはない。どうして婦人会と青年会がつかぎあらないのか、最近若妻会の方に聞いてみましょう。

(小野)

共に語る場がないのではないのですか？ 私達の母がやっています婦人会とも交流がないんです。やはり交流の場、今年の秋、地区で運動会がありバザーをしました。そういうことをすることによって昔ながら少しずつお互いに顔を知ること、まづわーではないかと思います。家を知ってても顔を知らないのが現状だと思います。やはり地域が一つの和になるということは昔ながら一諸に出来る何かがある。そういう機会を作らないと話し合いの和も出来ないのではないのでしょうか？

(日隈)

チャンスがないと言われました。どうしてそういうチャンスがないのか、そのきっかけとして今日の様な劇があると思うんですよ。たぶん若い人に見てもらいたいけど、高齢者にも見てもらいたいでしょう。私は一諸にやりたいと思うのは若い人からの方が強くて、以外とお年寄りの方が弱いんじゃないかと思いました。今日の劇を演じて高齢者とお母さん達と青年達のつながりをどう思いますか？

(十代田)

かなり多くの人に見に来ていた良かったですよ。でも町が

他に気を引く様な行事をしてあります。このステップ会議に来てくれと放送したから、たのびだが、・・・。つながりがもてるというのは、千代田の場合各地区にもどって各地区の青年会が老人会、婦人会の人が集まってやる行事の中でいろんな話が出る様にやって行きたいと思います。

(日隈)

今日、劇をやりました。長くかかって練習して今日発表です。この会場で若い人達がやってることわかってはいるけども、町はお金をかけて客をよそに引く様な事をやりました。それが情けなかったと彼は言いたかったのだでしょう。青年の人達は15ヶ町村の仲間を集めてにもかかわらず、町にあんなふうに土れたという事で泣きそうになってました。やがてしかし今日の砂をかむような苦い思いをした彼らがですよ。そのかみつぶした砂をですぬ、石ころを変えて今の寂しくなっていく人間関係にぶつけて行く、そして豊かな町を築いていってくれるように思います。もう若い人達は教育水準も高くなって、いろんな情報を持ってます。夜毎40kmもかけて連帯するんでおから、だから長男しか残ってないですけど、十分この町の未来を担っていくエネルギーと意気込みがあるんじゃないかと思います。



(千代田)

出来れば、こういう機会を、今年も千代田でやってみたい  
が今夜は他の所で行って、いただきたい。その時は私達は可ぐに  
でも飛んで行って、この町がやるにしても私達はいつでも、  
お返しを可ぐ用意はしているし、そうしていただきたいと思いま  
した。

(会場)

テーマに「キラキラの生き方」と書いてありますが日隈先生  
の平素の御出張だと思ってお聞きすると、全く今日の合合  
そのものがキラキラと輝いて感じられました。この西中国  
山地を背負っていただける木玉なかなんたううと感じておしま  
す。ここからは日隈先生がよろしくなくても若い皆さんだけで、  
ふゆあいを大事にする。そしてお互いのキラキラ感性のもとで  
地元の生き方を苦こていくというような努力を続けていって  
いただきたいと思いました。

会場

私は、今、非常に感激しています。若い人には熱がなくでは  
いけない。このことはかねてから思っていたことですが、今日  
ステージに上っておられる各町村の会長さんをはじめ、みなさ  
んには、熱が感じられます。

村や町、家のことを真摯に考えるのはすばらしい。筒賀の方  
も人口が少ないからといって委縮することはありません、地元  
に愛着をもって、胸をはって生きて下さい。

最後に今日のこの集りを大切にして、これからもこの地域を  
盛り立てて下さい。

日隈

今、親鸞聖人からお言葉がありました。熱のない青春なんて  
熱のない青春なんて……もう時間が27分過ぎちゃって次の催物

がま、ているようでございます。すばらしい会場側の激励とあるいは15ヶ町村、ほんとにご負担のところ駆けつけていただいてそして今日の仕かけ人の責任者が、次回、どこかの町村へ我々から出かけて行って、とおっしゃってましたけど、輪がどんどん拡がっていきます。そして、その輪の中で千代田の果たす役割があるかと思えます。

最後、ほんとに最後になりましたけど会長一言ごあいさつを、千代田。

今回、西中国山地ステップ会議というのを千代田で開かせていただきました。これはやはり、僕達が広域的な視野で考えて行くという主旨をもとにこういう会議を開かせていただきました。そういう意味でも今後、これをもとにもっともっと広い視野でものごとを見て行きたいというふうに思います。たいへんありがとうございました。

日隈先生におかひましては、北の中をこういう青年の会議にパネラーとして出席していただいてたいへんありがとうございました。そして、西中国山地ステップ会議ということで15ヶ町村の青年の方が今日は、千代田に集まって下さりました。たいへんど無理を言って、祭りのある中を千代田に来ていただいてたいへんにありがとうございました。これからいろいろと15ヶ町村の青年が集まって何かをやりたいと思います。

それで今日は、千代田でありましたけど、今度は大朝、あるいは石見というような形ですすめていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。そして11月23日に町の30周年の記念シンポジウム、そして今日の西中国山地ステップ会議、その総決算としてクエイティブふるさと3and15という事で広島1区の国会議員の先生方3人を招いて西中国山地を考えていこうというテーマをもうけていますのでぜひとも参加をよろしくお願いします。

# クリエイティブふるさと3and15

—— 広域的にふるさとを考える ——

● 11月23日(金)午後2時  
● 千代田町開発センター

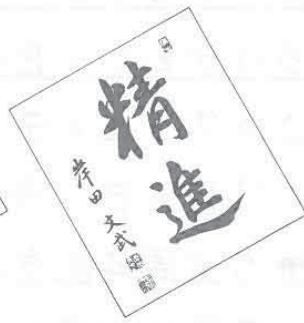
3は……

大原 亨氏  
岸田 文武氏  
福岡 康夫氏

15は……

島根県邑智郡  
高宮町  
瑞穂町  
石見町  
高宮町  
甲田町  
向原町  
美土里町  
吉田町  
八千代町  
千代田町  
大朝町  
豊平町  
芸北町  
加計町  
戸河内町  
筒賀村

広島県山県郡



福岡 康夫氏



岸田 文武氏



大原 亨氏



コーディネーター



日隈 健氏

(三 宅)

大変長らくお待ちを致しました。本日は、お忙しいところ  
“クリエイティブふるさと3and15”におこしいたいただきまして誠に  
ありがとうございます。ご登壇の先生方には、遠くから足をお  
運びいただきご苦労様でした。

これから行います。公開討論会クリエイティブふるさと3and  
15ですが、これは西中国山地ステップ会議が主催し、これから  
の広域的なふるさとを考えようと山県郡、高田郡、そして島根  
県の瑞穂町と石見町の15ヶ町村の青年が企画したものです。

ところで、このクリエイティブふるさと3and15は、今日お来  
しいただいております広島第1区選出衆議員の先生方3人のス  
リーと15ヶ町村の青年のフィフティーンとが一緒に話し合い、  
これからの新しい住みよいふるさとづくりをしよう。そのため  
にはどうしたらいいだろうかといった今日のテーマにもとづい  
て考えられています。このクリエイティブふるさと3and15に先  
がけまして、既に今月の11月3日、今日のこのステージと同じ  
この会場で千代田町制施行30周年記念事業“シンポジウム千代  
田”が、また11月4日、青年が主催しました西中国山地ステッ  
プ会議が行われました。その内容を踏まえながら、私達青年が  
またこの地域に住む人達が自分達の住んでいる町村の枠を越え  
てどういうふうに生きていけばいいんだろうかといった興味深  
いお話も聞けるとおもいます。

それでは、今日お話をいただく方々をご紹介します。

パネラー

衆議院議員

大原 亨、岸田文武、福岡康夫

15町村代表

(豊平町)伊藤たつま、(筒賀村)片山みちよ

(吉田町)沖田あきこ、(千代田町)石坪隆雄

コーディネーター

広島修道大学

日隈健王

以上3人の先生方と4人の青年にお願いしております。なお、日隈先生には、先ほど申し上げました“西中国山地ステップ会議”でも司会進行役をつとめていただき、すばらしいご意見をいただいております。それでは、2時間に渡り、日隈先生、どうかよろしくお願いいたします。

(日隈)

こんにちは日隈です。今から2時間を1時間30分だと思って来られた先生方もいらっしゃるんですけども、どっこい2時間帰さないというのがこの会です。3人の先生方と15ヶ町村西中国山地に今日を生きる、明日をどう生きていくかを考えて行きましょう。

今日は、会場のみなさん方からも何人か質問が出ます。それにどう受け答えていくか、西中国山地を一番愛しているのはどの人かな、はっきりとわかりますよ。じゃあ進めて行きましょうね。

まず最初に西中国山地を先生方は、どういうふうにご覧考えていらっしゃるか、どういうふうな印象をお持ちか、一番左の大原先生から聞いてみましょう。

(大原)

ご指名いただきました。衆議院議員の大原亨です。ご紹介をかねて4分間ごあいさつということをございますので。

私が、国会に出ましたのが昭和33年でございます。あの当時から高田郡、山県郡、この地域の問題とのかかわりを振り返ると、みますと縦貫自動車道の法律を作りますときに、これは国全体の法律の名がついておりますが、実施いたしますと



きに、北まわりにするか、南まわりにするか、こういう意見がございまして。南まわりというのは庄原の南の方からずっと南へ路線を引いてまいりまして佐伯町のあたりで、つまり広島の方では山陽高速道路を位置させまして南へ引いていくという案でございまして。北まわりというのは、今のだいたいの路線でございまして。

建設省の技術者は全部、経済性では南まわりを主張しました。

今の道路公団総裁の高橋君も高速道路室長をやっておりました南まわりでございまして。経済性でした。

しかし、私は国会で北まわりをとるべきであると答弁いたしました。私も同じだと言いましたので、ピョッと北まわりに決定いたしました。中国縦貫道が貫通しましたが、私の中で問題がなかったわけではございません。吉和を通りましてあの長いトンネルがあるわけですが、そこを通す高速道路が本当に開路に役立つのだろうかという疑問がございまして。

もう一つかかわっておりますのは、中国横断自動車道でございまして、これはこの路線を法律で決定しますときに、たしか昭和47年だったと思いますが、私ども議員が参議院議員で中村じゅうぞう君というのが建設委員長をいたしておりましたのでこの道路はできないという段階がございましてけれども、地元のみなさんがですね、亡くなりました砂原代議士と超党派的に協力いたしました。そのときに非常に無理をいたしまして、その法律を通したことがございまして。

そういうことから考えてみまして、今新しいこの文化地域における文化活動や青年活動の芽ばえの中で、こういう問題が自立的にとりあげられておるといふ今日のような行等がおきてまいりまして、みなさん方がどういふふうに考えられる。これに対応しまして国としてはどういふことをやったならばいいか。

こういうことについてみなさん方と一緒に考えさせていただく機会をもったということは、私は非常にうれしいことでございます。

時間がございませんので以上は申しませんが、農業を捨てて農業を無視いたしまして地域の開発はできませんが、農業だけではできない時代に入ってきておるわけでありまして。生活と文化、文化と産業、その関係を正しく考えていってですね。この地域の立上り、それに対して国がどう対応していくかみなさんと一緒に考えていきたいと思っております。以上です。

(日 隈)

どうもありがとうございます。さすがベテランですね。4分ロシャッといきます。じゃあ、もうベテランの境地に入りました岸田花生ですが、岸田先生、マイクフォンはいつものカラオケのように口の前にもっていただけですか。よろしくお願いします。

(岸 田)

今日、1月ぶりに千代田にやってまいりました。午後から本当に麗かな天気でございます。今年はずしぶりにお米のできもよかってよかったなあと思っていたときです。来る途中にちょっと氏神の工業団地によりましたら、もう赤い鉄骨が立ちまして、「あーずいぶん頑張ってるな」というような印象をもったわけでございます。

ご承知のとおり、日本の過疎問題というのはこの西中国が1番のスタートでございます。それから日本全体にずーと広がって行った。まああれからかれこれ20年たつわけでございますが、その間にみなさん方も一生懸命頑張りましたし、政府の方もいろいろ応援をしまして、過疎の問題、グッと上俵際で踏みこたえてこれから頑張るぞというようなとこ

ろまでようやく来たような気がするわけでございます。

これからの西中国の産業をどうしたらいいんだろう。これからの我々の町づくりをどうやっていったらいいだろう。文化をどうやってみんなで育てて行ったらいいか。ちょうど今こういうことを考えるいい時期に来ておるように思うのでございます。

私は、中小企業のお世話をしたり、産業のお世話をしたり、ずっと長いことやって来たわけですが、これで国会議員3回当選をいたしましたして、今度総務政務次官という仕事を頂戴するようになったわけでございます。一生懸命みなさん方のためにご奉公したいと思っております。

私は、実は子どもが4人おります。1番上が27才、1番下が19才、でも私はあまり年の違いはなしにみんなとしゃべるように思っておるわけでございます。今日、みなさん方と一緒にこれからの将来を語っていきたいと思っております。国会議員がろ人集まるそうで、めったにこんなチャンスはないのでございます。これからみなさん方のために力を合わせてやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(日 隈)

謙虚ですね。ろ分でした。さて、ルーキー小早川といいたいですが福岡先生、ルーキーでいいかがですか。

(福 岡)

ただ今、ご紹介にあずかりました福岡でございます。私は今までの先輩議員とは違いました。昨年の始めまでは公正取引委員会という役所におりました。この中では1番新参者の議員でございます。両先輩もご造詣の深い方でございます。そこで私衆議院議員の候補者となった段階でいろいろ広島1区の農政問題の研究のために広島県の農政部、農林水産省の私の友人に話をお伺いしたわけでございます。そのとき私、非常にびっくり

したことがございます。

というのは、広島県の農政部の幹部の方も申しておるわけ  
でございますが、広島県農政は全般的におくれておる。特に  
山県郡 高田郡 神石郡あたりは、他の農政よりもず、とおく  
れておるんだ。こういうことをご指摘されたわけでございます。  
いろいろ私、その実体面について広島県農業の主要指標  
と全国順位とを数字的にいろいろ研究してみたわけございま  
す。そこで意外なことがあるわけでございます。

この千代田を中心とする西中国あたりの指標関係の分析を  
してみたところ、特に農業就業人口につきましては、非常に  
女性比率が高い。60才以上の比率が全国で一番高いという現  
象をその時点で初めて把握したわけでございます。

これは、誠にもうしわけございませんが、私の率直な意見  
でございます。私、公正取引委員会の役所におりましたと  
きは、こちら山県郡 高田郡にも物価行政、消費者行政で  
足を運んでおったわけでございますが、その国家公務員のと  
きは誠にもうしわけございませんが、そういうこと知って  
おりませんでした。そこでそういう形からみて広島農政は全  
国的におくれておるんだと、そこへこの全国の道路網の整備  
におきまして、中国縦貫道路がこの西中国ともうしますか、千  
代田を通過いたしましたし、ずうっと大動脈が走ったと、いわゆ  
る交通網とおくれた農政とどういうふうに対応して行ったら  
よいか、これがこれからの千代田町を中心とする西中国のノ  
番の問題ではないかとその時点ではなほだ耻しいしさいです  
が感じとったわけでございます。

やはりこれからの時代は、先程大原先生もおっしゃってお  
られましたが農政と近代的交通行政とどのように調和してい  
くか、これからがこの問題点の整備状況に入って来る段階で

はないかというふうに考えたわけでございます。実はこの前の月に衆議院の商工委員会の商工委員会の商工委員として初めて熊本と大分の地を国政視察させていただきました。

あの工、みなさんご承知のように大分の新産都市、そして熊本の新産都市いろいろ農政の場においてのはじめての通産の行政との調和点として全国的に非常に脚光をあびております。熊本周辺の状況、大分空港周辺の農村部の状況、こういうものをつぶさに拝見させていただいたわけでございますが、その中で私、非常に目とみはると同時にこれは何かす、ざりしないものがあるわけではあります。

やはり、近代的な驚異は見ましたが、その中にオーに入れようとした農政との調和点をどう感じたらよいか、何か物足りないものを抽象的に感じと、たわけでございます。西中国の問題は交通行政と今までの農政とをどのように調和していくかと我々がこれからとりくまなければいけない状況ではないかとこのように思っております。

卒直な意見を申しまして恐縮ではございますが、私は西中国をどうみるかという形で今いろいろな面を分析して対策を考えていきたい、このように考えております。

(日 隈)

どうもありがとうございました。

さて、我々がかかかって、我々が選んだる人の先生方です。千代田の青年達はある日突然る人の先生方に来ていただきたい、あるいは来て一緒に話していただきたいという夢が今や、と実現しました。すばらしい先生方です、すばらしい青年たちがこの企画をしました。そのすばらしい青年達に意見を聞いてみましょう。ミス西中国山地<sup>84</sup>に選ばれました片山みちよさんです。今選びました。

(筒 賀)

こんにちは 筒賀村の片山です。私は筒賀に帰って今年  
目です。現在、保育所に勤めています。

筒賀の人口は現在1700人あまりの小さな村です。産業面  
においては広大な森林を利用して村の財源をささえて来たんで  
すが現在では林業の低迷によって国に財源を依存していると  
いった状態です。従って、国の行政というものが直接私達の  
生活に影響して来るといった現状です。私達はこのような現  
状の中で真剣に取り組みながら、そして私達青年が積極的に活  
動して行かなければならないんじゃないのかと思っています。  
以上です。

(日 隈)

明るいですね、この間まで過疎だ、過疎だと言って過疎地  
の青年ってのは暗い顔をしているかと思えば、あんなに明る  
い、おしゃべりなんかどうでもいい明るければいいって感じ  
の方です。

さて、次ですがあの有名な走れコウタロー、あの有名な走  
れコウタローといいますがとちって有名な豊平の人です。伊藤  
さんどうぞ。

(豊 平)

ありがとうございます。こんにちは。豊平の山本コウタロ  
ーこと伊藤です。僕は今、豊平町の農業共済組合というところ  
にお世話になっています。仕事の特徴が農業が地域の基盤  
として、とても大切なところであるということも毎年のように  
認識しているんです。

さて、僕が豊平町にもどって来て2年半くらいになるんで  
す。それまでは広島の可部とか、京都の方におりまして、自分  
のやりたい放題、気のむくままに勉強とか遊びをしておりま

した。それで、田舎に帰って来て、いざ遊ぼうと思っても今までのように友達がすぐ横にいるわけでもなくて同年代の仲間を求めて町の青年会に参加したんです。最初の頃は、ちょっとなじめないところもあったんですが、自分の考えをその場に出て言うとちゃんと応答があるんですね、それでこういうのは自分のためになるんじゃないかと思って一生懸命、今活動してましても、青年会活動しているうちに青年会はただの遊びの集団ではなくて、もっともっと自分達のことを知らないといけないし、周りの人達にも自分の存在を知ってもらいたいなというふうに感じるようになったんです。今から田舎のよいところを、都会のよいところを自分達に取り入れて、青年会をもっと躍動させていきたいと思ひますし、積極的に隣の町村と交流を深めたりしてもっともっと自分達の思想を高められたらと思ひています。以上です。

(日 隈)

どうもありがとうございます。さて、ろ人目の青年ですが、あの毛利元就の未裔だと言われております。白代目位ですかね吉田は今、毛利の面影が全くありません。静かな町に変わっておりますが、その中で一番燃えている沖田さん。

(吉 田)

みなさん、こんにちは。沖田でございます。今、日隈先生からご紹介がありましたように私の住んでいる町、吉田は毛利元就の発生の地と言われ、彼の残したスローガンに“百万一億”という言葉があります。そのせいかどうかわかりませんが、みんな仲良く何かやっへ行こうという感じではなくてお手々つないで何もしないでおろうよみたいなあまり刺激の好きじゃない町じゃないかと私自身思っているんですけども、生活するには何の不便も感じていないわけなんです。そんな中で私は

今、町の公民館で仕事をしています。

ご存じのように公民館というのは、地域の人たちの学習の場であり、つどいの場です。大きな意味で遊びを通して人と出会う場だと私は思っています。だから、私はおのずと仕事のような遊びと遊びのような仕事をしている。で、この仕事をとっても愛しています。そして、できることならこれからずっと将来も地域の人達と共にや、ていけるジョイント役の一員でありたいと考えています。

青年とか、婦人とか、成人とか、高齢とかそういう枠を越えた女性という共通ニウでく、て世代を越えた人達との交流の中で未来の地域づくりをや、ていけにらいいなと思、てます。将来は女性の手で地域づくりをして行きたいと思、ていらんです。

やはり、女性ですからきめの細かい情報、ボランティアなら男性に負けないんじゃないかなと思うんですけども、会場の女性のみなさん、いかがなものでしょうか。ありがとうございます。

(日 隈)

どうもありがとうございました。さてさて、こちらにお座りの方、見かけは本当に…すごいですけども、この人みかけどおりすごくてですね、国会の20周年のあの大原享先生をここに据えて勉強会をさせようとたくらんだ張本人であります。

石坪君、この青年会の会長です。会長ですからたぶん中味の濃い話をすると思いますが、期待をして聞いて下さい。

(千代田)

千代田町で青年活動しています。石坪です。今日はいろいろお世話になります。

僕は、農業関係の仕事をしています。その農業関係の中で



日頃いろいろ感じている問題のノツをあげていきたいと思っ  
ます。今、西中国山地には横と縦の線ができようとしています。  
それが、昭和57年、全線開通の中国縦貫道、そしてこれから山  
陽と山陰を結ぼうとしている中国横断道だと思っます。

今、千代田町、大朝町において工業地域の造成が進められて  
います。これによる工業誘致、これは私達青年にとって就業の  
機会の確保であり、地域への人口の定着化とたいへんに期待を  
かけていることです。夢もいただいております。

でも、その一方で主要産業は私が思うには西中国山地では、  
農林業ではないかというふうに思うんです。そういったところ  
から、今日西中国山地の展望なりをお話し願えたらと思っます。  
よろしくお願ひします。

(日 隈)

予想に反してかなり内容のある話でしたね、ドキッとす  
るわけですけども、さすが会長です。

さて、ドキッとした内容のある話を受けまして、先生方に  
それぞれコメントをいただきたいと思っます。

今、西中国山地は高速道路が通りました、物流といっますか  
流通といっますか、めま苦しい絶達あるいは進歩しているわけ  
です。もう千代田町は、90%は農業以外の所得で暮らしを立てて  
いる、ものすごくバラ色です、若い人たちもどんどん帰って来  
る。ありうるだけでちょっと心配すると石坪会長はおっしゃ  
いました。

大原先生、この点についてはいかがなものでしょうか。

(大 原)

この間です、数日前ですが、国土庁が仕事でやるんですが、  
千全総というのを発表しました。お4回全国総合開発計画です  
ね、その資料の中にみえますと私どもはびっくりしたんですが

1980年には農業就業人口が、700万人でございましたが、これが2000年には340万人に減ります。これは半分になります。そして、2025年には80万人に農業就業人口が減ると。農業人口がですね、壊滅状況になった市町村はこれはもう、その地域としては、それと一緒に65才以上の高齢者比率が、1980年には48%になり、2025年には65%になります。つまり半分以上も越えまして、65才以上の方がいまして、35%が65才以下ということになるわけです。そういう見通しの統計があるわけでございます。

そういうしますと、農村は日本全国もそうですが、高齢化と高齢化の大きな波に洗われましてどうなるかということがあります。そこで私は結論的に言いたいのはですね、農村にピターンをするというふんなことではなしに、新しい青年が農村にどんどん入って来るような農村を作っていくなければならぬのではないかとこういうことでございます。

そこで、じゃあ国の政治の面や農業政策の面でお話しし、どうすべきかといいますと、やはり米を中心とした食料自給政策である農業というものが、これは国の方針として動かしてはならないということがあります。これは比率がどんなに下がりますしても、所得の比率が下がりますしても、それを動かしてはならぬ。それは農村の地域を日本の国土全体の中で重要な地域として守っていくということでもあります。ただし、いろいろまた時間がありますが、農業だけではいけない。いけない場合どうするかということになりますと農業自体の改革が必要である。どうなるかということが1つ。

それから、農業以外にですね、農業だけでは自立できんわけですから、専業農家をどんどん増やすという可能性は非常に薄いわけですから、やはり農工両立の道でですね、追究し

なぎゃならんと、農工商立の道ですね。安い賃金だけを頼りて来るような企業ではなしに安定した企業をもって来なければならん。その一つは農業や畜産業や林業にかかわりのある加工業といたしますか。工業をもってこなくてはならん。

もう一つはですね、縦貫道や高速道路の交通網の整備に対応いたしまして交通、信機関が発達するわけですから、これからの21世紀の産業はですね、重工業長大の縦貫工業中心から、これは否定しませんから、軽薄短小、付加価値の高い産業でございませうから、この産業をどのようにこの地域に配置するかということが、非常に重要であると思ひます。

(日 隈)

どうもありがとうございました。これが、この青年主催のこの会議にとって非常に重要な問題だと思ひますので、やっぱりお三人の方に聞いて頂きたい。“庶民の味方”といつも言われております、福岡先生、いかがでしょう。素朴な教育だけが能じゃないんじゃないかな、農山村でも塾なんかはほしいんじゃないかなと、先生は自己批判されてるんですが、いかがですか。

(福 岡)

今、筒賀村の女性の方のお話を聞いて、なるほどなと思つたところがあるわけでございます。たしかに予算面等から見れば、託児所、幼稚園、小学校中学校というのは、合理化という名のもとに、 $1+1=2$ 、 $1-1=0$ というように、数字的に見れば確かに私は、合理的に過疎地のものをなくしていつて集中をすると、そして合理化するということは、やぶさかではございません。しかし、そういうことは確かに数字の面から言えば、当然これがいいとは思ひますが、その中にちょっと考えなければいかんところがあるのではないかと。これは幼稚園なり、小

学校、中学校というのは、やはりその村で生まれた方。その町の方の心のシンボルではないか、やはりそこに小学校、中学校、幼稚園というものがあるということに、若い方たちは1つのシンボルとしての愛着心が。あそこで運動した、また、3人か4人か5人ぐらいのところの生徒でありましても、そこで4人か5人でも運動会をひらく、おじいちゃん、おばあちゃんも出ている、また村の方も出ている、という形でやっ たという記憶があとどういように、その成人された方が、お感じになるか、これはやはり、大切にしていかにゃいかん、こういう面がございませうので、やはりなんとか、確かに今、行革も必要でありますが、教育面の心の灯とか、そういうものを換算しながら、やはり幼稚園対策、小学校とか中学校対策の合理化は考えなきやいかんのではないかと、いのように私は感じております。

(日 隈)

どうもありがとうございました。さて最後は岸田先生になるんですけど、岸田先生はもう御存じのようにエリートの中のエリートで東大を受けて、長官をといる……岸田先生はきっとエリートで詰め込み教育で東大だから、もう農山村の勉強なんかもうしょうがないと思っているかむしろないと思っている人も何人かそこら辺に、いたんですけども、どっこの岸田先生は、信じられないぐらい子煩悩でございまして、子どものことになるとコロッと変わりますよ。先生いいですか。

(岸 田)

ちゃんと私にも言わせて下さいよ。あの今、あの片山さんが、保育、医療を通じて毎日考えられていることを、こういった機会に発表されたということ、たいへん私、貴重な意見だと思います。お子さんを預って、そしてそれをりっぱに育

てよと言って、御苦勞なさっている。しかし、今やっているようなことでいいんだらうか、都会の保育所じゃ、ずいぶんいろんな詰め込み主義なんかでやっているようだけど、これで本当にいいんだらうか、なんてことも、いろいろ悩んでいるように私、感じられたんです。でも、片山さんは自信をもってやっていただいていいんじゃないか？と思います。で、小さい時から、その、文字や覚えたりなんかすることは一つもいらないんで、やっぱり小さいときは、素直でたくましくて、意欲のある子どもを育てることが、一番大事なことです。

で、広島の街と筒賀と、どれだけの違いがあるんでしょうか。私は情報のギャップがあるわけじゃないです。意識のギャップがあるわけじゃない、やっぱり共通にどんなにすばらしい若い人と会っているかということが課題でしょう。

私はその辺において、多いに頑張ってやって頂きたいと思うのです。ただ、おっしゃったように、本当にこう人数が限られておりますから、非常に規模が小さくなってしまふこと、そうするとやっぱり大きな施設のような、いろいろの近代的な装備なんて、むつかしい面もあるんじゃないかという気がします。だからといって、私、統合したら問題が解決する、けっして私、そうじゃないと思うのです。いかに、子供さんを手作りで育てていただいて、子供さんが大きくなつたときに、あの先生にお世話になったなど、思い出してもらえることが一番大事なことでございます。

4月、小学校なんかで、二部授業、三部授業のところへ、私、よく行って先生方の話をよく聞くのですが、それなりにいろいろ苦心してやっておられます。それが、限界に達したら統合の問題が起るかもしれませんが

それに行くまでにやるべきことが、たくさんあるような気がしております。互いに教育の問題というのは一番大事な問題でございます。これは、先生方をお願いするだけではなくて、家庭も社会もみんな教育の問題を考えなくちゃならない時期に来ていると思うんです。

ちょうど、臨教審、これからの教育のあり方を議論する大事な場面が、これから開かれるわけでございます。どうぞ、一つみなさん方も多めに教育の問題については意見を言って下さい。そして、みなさん方の意見によって明白の教育ができるようにしたいものです。というふうに私、願っておるんです。以上です。

(日隈)

よかったですね。石坪さん、多少成績悪くてもいいんです。すこやかに育つことが必要です。石坪さん、26才ですからね。やっぱり、そうは言っても少しは、まじめにやらなければいかんと思うんですが、いかがでしょうか。石坪さんの感想なり、またこの地域での考えていく問題について、続いてどうぞ。突然言うと、オッ！とするんですよね。

(4代田)

いろいろ先生の意見を聞かせてもらったわけですけど……これとは、ちょっと別の方向に……

(日隈)

答えられなければどうぞ。

(4代田)

答えられなければと言われるとむつかしいんですけど。

(日隈)

どうぞ、原稿どおりやって下さい。

(4代田)

ぼく今、原稿がないんで、非常に困るとるわけなんですけども、やはり農業の問題でよろしいでしょうか。やはり、農業の問題で、いろいろ農業の問題あると思うんですけど、農産物の輸入問題が、すぐひびいてくるという状況があると思うんで、その辺のところを、お話願えたらと思うんですけど。

(日隈)

農山村の問題といたら、先生、誰が一番御詳しいんですか。手を上げていただけますか。どうぞ！

(岸田)

福岡さんに、私、指されたんですけど、私、ついこの前、農林の副会長をしてあったことによるんだと思うんです。で、副会長のときにたいへん苦勞したのが、この輸入をめぐる問題でして、アメリカの方から牛肉をもっと買え、それから、オレンジをもっと買えということで、どんどん責められてこられる。でも農家の方は、それでは、たいへんなことになるといって御心配になる。その折合いをどうつけるかということで苦勞したわけですか。

で、都会の人にかかると、そんなこと、もう思い切り踏み切っちゃったらどうだろうかという人がたくさんあって、やっぱり安いお肉、安いオレンジを食べることの方が、大事なんじゃないですかって言われる方が、非常に多かっただけですか、私、このところ見まして、少しずつ都会の人の考え方も変わって来ているような気がするんです。

やっぱり、いざというときに食糧というものは、全部海外から輸入してたら、やっぱり、ちよつと心配だなということも思う人が、だんだん増えて来ているということ、私は、ちよつどいいところへ来ているなあという気がしております。

まあ、今日はいろいろな立場の人がいるわけですが、もうア

アメリカの方が牛肉を増やせ、オレンジを増やせというのは、多少わがままないい方のような気がする。といいますのは、それでもって、アメリカと日本の間の貿易問題が、解決するんならそれなりに踏み切ることができるんですが、どうていそんなこと、できるわけないです。逆にいうとアメリカ自身だって、牛肉の輸入については、いろいろ、その制限なんかしているんだから、よく言うよなんて言いたくなるようなそんな状況です。ですから、日本は日本なりの立場があるんで、それをしっかりと主張しながら、アメリカにも、理解していただいて、あまり無茶なことかなりような、おさまりをつけることがどうしても必要でしょう。

今の段階は、それらのものを、ポコと自由化できるような状況ではないということがわかってますし、みなさん方だってそんなことになったら、たいへんだとお考えでしょう。そういうことで、輸入の問題については十分慎重に政府としても、やっていくつもりでありますから、しかしそのかわり、やはり都府の人のことを考えまして、少しでもいいものを安いものを供給するように頑張ることは、やはり農業に携わるものの責任だというふうな気がします。以上です。

(日隈)

どうもありがとうございます。あ、お願いします。

(大原)

これは、私の意見を聞かれましたらいいと思います。

というのはですね、やはり国の政治というのは、野党がしうかりしとらにやいかんですね。与党が、自民党だけが政治しとらんじゃないんですから。政治はね。たとえば農林大臣、前のね農林大臣としまして、外務大臣の安倍晋太郎、私と昭和33年組ですが……にいたしましてですね、あのアメリカに行きまして



ですね。どういうことを言いますかと言うと、あまり農産物の自由化ということで、日本の政府に圧力をかけて、アメリカまで自由化しろと。そのようなことを言うと日本の保守党は、自民党はもう「政権が取れなくなりますよ。」と「負けますよ。」とこう言って、まあ言うわけです。

つまり、野党の持ちんとした意見があればですね。国全体といたしましても外圧を防ぐことができる。外圧は何かと申しますと貿易摩擦であります。レーガン、新しい政権もありましたように貿易摩擦がもう一回起きてまいります。

なにぶんにもですね。日本からアメリカへ輸出をして、超過しておるのが350億ドルですから。まあ莫大な。言うなれば1200億ドルぐらいのアメリカの赤字の大部分を日本がしめておる。しかし、日本からいいますとね、飼料は98%、この牛肉とか豚とかですね。にわとりとかですね、そういう肉では買っておりませんよ。卵では買っておりませんよ。加工品では買っておりませんが飼料で買っておる。98%買って日本で肉を作っておるわけです。

ただ、肉もどんどん入れましたら、そうすると飼料の方がどんどん減るわけです。飼料を作っているものと肉を作っているものと違うわけですから、ドカ食ことを言、ちゃいけないと。こういって私どもが、は、まりものを言わなければいけません。そして日本のこの穀物の自給率は33%。いつも農協の文書33%を下っているわけです。そして、これだけが100%です。自給率ですから。

米を中心とした食糧というのは、日本にもっともふさわしいしあるいは世界中でも、これは一つのモデルになっているというふうなことです。米を中心とした食糧の33%を穀物の自給率を少しでも上げていくという政策全体の軸としてとっていくことが必要です。

防衛圧力もありますよ。景気回復もありますよ。農産物回復。

次は米、米です。もうあまってるわけですから、そういうこと、この間の韓国米のときもですね。韓国米、ぐるっとまわって、カルフォルニア米を買っているかもしらんという議論が起きたぐらいですね。あまってるわけです。

それぞれの国が、たとえばイギリス100%、ドイツが100%。穀物の自給力がフランスは150%で輸出をしているわけですね。それほど食糧については、みながちゃんとやっているわけですよ。あのリビエトが、何千万とかがって来ますが、国内に一年ぐらいい備蓄しているんじゃないかと言っている。あるいは、東ヨーロッパ、その他ある国に対しまして輸出をしている。再輸出をしている。

米は非常にぜいたく物質でござりますから、その中心となる米を中心とする農産物で身近な私どもの野菜、その他も含めてですね。畜産も含めて自給率を上げて、手近かたところであんな食糧を確保するという、そういう政策をやる、そういうことを議論していくということがあってですね。全体といたしましてですね。あの、日本の農業政策は、安定確立、20世紀かけてそういう展望があることちゃんと示さないとですね。よりどころがなくなっちゃってから、米が自由化したりしましたらですよ。農村崩壊するんです。完全に崩壊。ですから、そういう点はですね、いろんな意見を出していただいでですね。そしてこれがですね、こういう機会等を通じて自然と反映するということですが、いろんな意見が反映できるような議会制民主主義のうまみがあるわけですからそれをですね、活かしていくことが必要であるわけです。

まあ岸田さんが悪いわけではなく、岸田さんはこれでよろしいと、これで。

(岸田)

一言申します。

あの 今話を聞かれました自民党はお米の輸入をやろうと  
思っているように思われたら大間違いでございますからね。その  
辺だけは誤解ないようにお米はちゃんとおいしい国産のお米を  
食べるのが日本の国の古来の伝統であります。それを一生懸命  
守ってまいりましょう。

(日隈)

国会の雰囲気は「パッ！」と伝わりましたですね。なんかここ  
で物なんか飛んでこないようにして下さいよ。

さて、大原先生がその頑張り野党の姿勢を示して下さいまし  
たので、お米の問題、貿易摩擦の問題はちょっと休止いたしま  
して、その真中にお座りの吉田の沖田さんに日頃考えてこれ  
だけは、今日がチャンスだから聞いてみようと思うものを。

(吉田)

そうですね。今お二人の先生の話聞いていて、やはりこの  
地域の主な産業である農林業の国際視野の中で揺れ動いている  
ということを感じましたし、このあたりに進出してい  
る企業にしても国際的なつながりを持ったものが増えて  
きていますよね。

やがて来る21世紀というのは、高度情報化社会が… という  
ふうなことも聞いております。そうした中で、ここ西中国山地  
で生きている私達若者も、ご多分にもれず日々の生活の中でも  
情報を選びとって、そして国際的視野に立ったセンスというも  
のが必要とされている。そんな感じがしています。そして、今  
日のこの公開座談会をすすめるために私達は、度重なる話し合  
をもってきました。そして確かに地域を越えた広い範囲で話し  
合をもつことの大切さを理解しました。でも、まだまだこう。

「私達の町、あなたの村、そういうような感覚でしかとらえられないところが多いのも本音です。で、いつまでもそこにとどまっていたのでは進歩や発展もたかが知れているし、という感じですし、未来も見えて来てないのでこれから、ここ西中国山地という一つのエリアでの生活や経済の交流や情報の広がりを未来的にとらえていく中では、行政自体も広域化していく時期に来てるんじゃないかなと思うんです。

今、行革などが考えられている中で、先生方はこの点どうお考えでしょうか、お聞かせ願えればと思います。

(日隈)

もう、今若い人たちというのは、イノシシと同じ距離を走ります。イノシシは夜毎10里走る。若い人たちは夜毎40km走ります。かけまわって15ヶ町村が、夜毎々隣りで飲んでるんですけども、千代田の酒の消費量ものすごく上りました。青年活動と酒の消費量、正比例して上っているんです。

そういうことがあるんですね。

どうでしょう、福岡先生、この広域化する青年活動と全々広域化してない行政の現状。

(福岡)

これは確かに御指摘のとおりでございまして、私も確かに考えてみれば市町村を越えてのいろいろ行政のやっている仕事と、いえは行政組合として単に消防署ぐらいのもので、消防活動だけはこの枠を越えた形で動いておるんじゃないかと思うんですが、その他の問題は市町村単位で動いております。

今、司会者の方がイノシシは何里、若い何時と40kmも走るんだと。このようなことをおっしゃってますが、やはり行政の枠を越えてこの青年活動及び公民館活動と申しますが、文化活動というものはやっております。行政はそのあとを追ってるとい

う形でございます。

ですから、青年の方が今やっておられます文化活動、公民館活動こういうようなものは早くその行政の枠を越えてやる対策を考えていかないと若人からおくれてしまうんじゃないかと思  
います。まずできる部分から先に手をつけて対処していくとい  
う形で私自体の考えとしては、文化活動と公民館活動は直ちに  
できる範囲内からやってほしい。またその辺に対して私の方も、  
御後援させて頂くという形をとりたいと思います。

(日隈)

どうもありがとうございました。どうしても、じゃあここで  
与党にも聞かんといけませんね。

(岸田)

私、この間この千代田に来たとき30周年の祝いとありまして、  
30年前に確からつの町村ですか、それぞれの歴史と伝統をもっ  
ている地域が一緒になって千代田町という一つの大きな旗のも  
とに新しい町づくりをしようと決心されたと思います。

やっぱり、あれから30年の努力が実って今日に至っているわ  
けですがそれでもまだ昔の名残りというのが残っているような  
気がするわけです。やっぱり地域々々の伝統というのは恐しい  
ものというように思うわけですよ。そういう中から今の若い人  
たちの声が出てきたということは大変にすばらしいと思います。

やはり、時代はどんどん大きな広い視野からものを考え行動  
する時代へやってきました。やがては国際的な時代へという  
ような大きな流れを若い人が敏感にとらえて問題を提起したん  
だなという気がしました。今、福岡先生がおっしゃったように  
できるものからやっていたいと思ってます。それで現にいろ  
いろな施設の面で組合を作って共同で事業をするという形はず  
いぶん増えて来ましたし、農協なんかは高田郡なんかは郡農協

と申されてますし、だんだんだんだんそういうふうな世の中になっていくんだろうと思ってます。それをもっと応援していったらいいんだろうと思います。

たまたま、私今度総務庁というところへまいりましたが、その総務庁の仕事のたいへん大きな柱としまして、行政機構改革の問題をやるわけです。しかも今、行政機構改革の中で何が一番問題になっているかといいますと、地方のあり方ということこれから議論していこうと思うわけです。国と地方との関係をどうする、そして地方の行政組織をもっともっと生き生きとしたものにするにはどうしたらいいかということこれから議論しようとする段階でありましてまさに今のよう大きな目から見たこれからの町村のあり方ということ、いわれるものをしっかり今のご意見をうけとめながらやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(日隈)

どうもありがとうございます。どうぞ。

(大原)

お許し頂きましたから

(日隈)

いえ。

(大原)

たとえば 医療にいたしましても過疎化いたします際には大きな不安の問題です。医療の問題、医療について安心できるようにいざというときもそうだし、こういうことで道路はかなり道路網はかなりよくなったわけですが、それと同時に通信網もよくなりつつあるわけですが、新しく飛躍しなければならない。

そういう段階ですからその場合にですね 町村だけで医療を

考えるということができない。実際にそうですし、ですから高度医療、救急医療が増えましてもやはり地域における開業医とのネットワークをとって、いつもですね。

消防の話が福岡さんからありましたが、消防は救急の連絡ですからそういうものについて、広域的なですねやはり対策を立てて過疎を促進しないようにしていかなければならないと思います。

縦貫自動車道や横断道にいたしましても、道路公団あるいは国鉄もそうですが、これからの一つの新しい仕事の分野として今度12月には電々法案が改正しますが、そうすると才2電々というのができるわけです。そうするとたとえば高速道路にですね光ファイバーを通すとそして高率的な情報の交流を進めるとこういうこともありますし、それを一つの中核といたしまして、通信情報のネットワークをつくっていきながらですね、あらゆる教育活動、社会教育活動、青年団活動、そういう日常活動の交流を進めていくということが、必要である技術革新の一つの大きな柱だと思えます。農業の技術革新の問題がありますが、それと一緒にですね、情報化に対応する広域行政ということ、これは今の地域体のままでできることですから、ぜひですね、町長さん、村長さん、議員さん、みなさん青年活動のみなさん方が、そういうものをどんどん出していただまして、そして自分の町だけにとどまらずに、手をつなぐということが必要ではないかと思えます。

(日 隈)

どうもありがとうございます。この千代田の町長さんにはですね、私、約2ヶ月ぐらゝ前に、広島でお会ったときに1区の議員の先生方に乗って頂いたので、そして、バケ町村集まるんですと、最初びっくりしたような顔をなさって、「はあ

そんな時代が来たのかと。それから、一言もおっしゃいませんでした。「はあ」とことで、ですから、このバス町村の中で広域化に一番初めにめざめた、町長さんではあるかと私は思います。

さて、しんがりを走ることになった。ユウタロー君、頑張って最後の質内まで。はい。

(豊平)

ありがとうございます。今まで、いろいろ意見を聞かせていただきまして、すごいな、すごいなと思っているばかりで、あのさっきの沖田さんの質内とちよっとだぶるところがあるかわかりませんが、でも、ぼくは身近な問題が好きなので、身近な方の問題を。

春の連休ですね。ゴールデンウィークあたりは、ぼくたちは田植えをしますし、秋の連休、みなさんは紅葉狩りに行かれています。ぼくらは、稲刈りです。ということですか。都会の情報や価値の中だけでぼくらの暮らしがまできていないんじゃないかと思っています。こういうと、まだまだ、都会对するコンプレックスを持っているのか、それとも、そうでなくて、都会人と、あ、と言わせていようか何かをしたい、と思うんです。

すべての道が、ローマへ続くという言葉聞いたことがありますが、どうも西中国山地のそれぞれの道が、広島市へ通じるというかんじで、なかなか横との連絡が、とりにくいんではないかと思うんです。それで、今日のような、こんな大きな単位の行事をすすめることで、あの近隣の町村が集まる度にですね、近くの町村にいろんな人種といったらいいんですけど、いろんな個性をもっている人がたくさんいることに気づいたんです。一つは、自分の住む町を一所懸命考えている若者がいる



し。一つには音楽や絵画やそんな芸術的な活動が盛んなところが。たくさんあるそんなところですよ。で、今農山村の活性化などと。いろいろ言われておりますが、それその思いの中で頑張っているものが、地域を越えて人間関係を結べたら、活性化どころか、新しいハイレベルな文化が生まれるんじゃないだろうか。そんなふうに気がします。

さきほども、青年がさきに地域を越えて戻って来れば、それを応援して下さるといってお話もあつたんですが、もうちょっと具体的に。ぼくたちがいつも集まったりするのに時間がかかったりするので、近隣の町村が、今よりも、と時間的距離が短かくなるように先生方にも、たいていどんな手助けがしていただけるだろうか。というのを聞きしたのが一つと、あとですね、ここに座ったときから思ってたんですが、国会議員の先生方とた、た1mぐらいのところで、ここに堂々と、めくめくとしゃべらせて頂けるのは、すごく、うれしいと、たらないですけれど、なんかすごく楽しいような、なんかわくわく、わくわくしてるんですよ。で、これからできればこういって集まりたいのは、自分自身もみつけることになると思うし、自分の住む地域をみっめ直すのに、いいチャンスだと思うんです。それです。この次にもこういう会を開きたいと思つたときに、再度先生方に、またおいでいただいて、ぼくたちの意見を聞いて下さいと言つたときに、先生方は、「ほい」と言つて下さるかどうか、その辺が心配なので、その辺も含めてお聞きしたいと思つます。

(目 嚶)

あー、なかなか穏やかに話してたんですよ。すごく内容のある話で、つまりこういうことなんです。行政も地域を越えて、連帯しなくてはいけな、もう若者はとっくにやっています。

先生方も党派を越えて西中国山地… あ、失礼!

りかがでしうか先生。

大先輩から手を上げて頂いて。

(大原)

あの、あの。

(日隈)

いえ、いえ、来て頂けるかどうか?

(大原)

あ、はいはい、さうです。

(日隈)

岸田先生いかがですか。

(岸田)

ぜひ、御協力させて頂きます。

(日隈)

すごい。さすがコラクターです。それではですね先生。もうプログラムとおりいってますと、2:30になると会場から質問ということになってくるんです。さきほどから真中に座らされてる上杉さんという方が、質問のセリフを一所懸命、ずーと覚えて、暗記してて、全然こ、ちの方を聞いてるふうじゃありません。だから、早く質問させてあげたいと思うんです。もうこれ質問すると、肩の荷が降りるんじゃないかと思うんです。

(上杉)

失礼します。私もこんなこと本当に初めてで、先生のおっしゃるように、ほんとはドキドキしてまして。今日、感じたことなんですけど、私達は昨年ある機会を得まして、自分の人生について改めて学ぶ考えているところなんです。

そして、青年活動を見ていますと、一所懸命活動され、すば

らしい一言でなく、この青年達が中国山地を担っていく人だからだと思えますと、頼むしさと、深く感じて本当にうれしく思っています。

私達も、何かできることはないかと考えて、今年一月からミニコミ紙を発行し始めました。でも本当にまだちよこちよこで未熟です。

今日、このように青年達を中心にして、県下でも初めてといわれております。このパネルディスカッションを企画された青年達を、諸先生方はどのように評価されたでしょうか。お聞かせ下さい。

そしてこんなに精一杯頑張っている、西中国山地の青年達にこれからどうぞ、お力添えをお願いいたします。

(日 隈)

どうもありがとうございます。

始まってから、一時間半ずっと、あれを暗記してたんですけど、結局、読むことになった。

どうぞ、入原先生、あの情熱に一票。

(大原)

あのですね。まあ次の機会も来させていただいて、もっと勉強しましてやって来たことをみなさんに、お話しできるようにになりたい、非常に今お話しの方は賛成でございます。

そこで、私、最初来るか、来んか言う前に1つ質問がありまして、活性化の話が、農村地域の活性化のお話がありましたので一言、私の感想ですが、私も最近少し先端技術の問題に関心をもちておるんですが、その中で農業技術の革新というのがあるんです。農業に一つ夢がもてないものかどうか、限られた土地で、もっとリッパな農業ができないものかどうか、あるいは

林業についても、新しい分野がないだろうか。いろいろなことですが、いろいろな問題も一つ勉強して、また新しいことを報告したい。と、いろいろは遺伝子の組み替えとか、細胞の融合とかいろいろで、人間とサルや猿の違った細胞を融合する。そんなことをいたしましたらたいへんですが、たとえば子宮外妊娠とかいろいろな問題があります。遺伝子の組み替えの問題は、インテグレーションとか、抗ガン剤でインターフェロンを大腸菌を媒体してやるわけですが、コストの抵抗のないインターフェロンができて、治療の見通しがつかますと、4ヶ月くらい寿命が伸びまして84歳、平均寿命84歳という人生になるかもしれません、いろいろな問題がありますがそれと一緒にですね、農業の品種改良にですね、熱、暑さに耐えて、寒さに耐えて、あるいは早く栽培して、そして安全、汚染をさせない農業をふんだんに使わないで、いろいろなですね。たとえば、いろいろな品種の改良ということができるですね、バイオテクノロジーの中でできればですね、私、農村は、新しい夢をもつことができるのではないかと。

たとえば、スギでもヒノキでも、新しい木材で40年かかるところを、20年でできるということになれば、また、いわゆる限られた土地の中で、水と空気があれば新しい品種の回復ができることになれば、最近、ハイブリッド、アメリカがですね、あの一だいいだけの雑種ですが、ですから、その種を日本へもってこなきゃならん。そうすれば、3割も4割も米が増産できる。しかし、日本は品種改良米ができてるわけですから、今、すぐというわけではありませんけども、いろいろなものは日本から技術が出てですね、また日本に売りつけられようとするので、日本食糧は、アメリカがまねるといふことになりますから、日本で自主的にいろいろな技術を革新いたしまして、農産や畜産やあるいは、林業の面においてですね、限られた土地で将来性の

あるですね。そして、市町村の地域を広げた、広い地域で特産物を出すというふうなことであればですね、それとの加工の関係もでてくるし、あるいは軽薄短い 附加価値の低い、産業輸出も私は出てくるのではないかと思います。

こういう夢を、どうして実現するかという点、こういう分野においても21世紀画期的な時代が、来るのではないかと、いふふうに予測をしながらですね。日本の農林省は非常に遅れたわけですから、今、筑波に研究所を集約して設けましたけど、その点を私の方、全力をつくしてやれば、お互いの活性化と職場をとして、伝統的な神楽とかね、何十回、何千回とくりかえしてみても、価値のあるものですから、そういうものがですね、十分と、伝統が引き継がれて全国へ発展できるような活動を、そういう活動を通じまして、また地域の農業や林業があるわけですから、そういうことでお互いに芽をもつことはできないかと、そういう点に関心をもち、努力はしてですね、みなさんと話し合いをもつていきたい。こういうふうに思います。

(日隈)

どうもありがとうございます。さらに次回は勉強して頂くという点でございませう。期待しましょうね。岸田先生、どうでしょう。

(岸田)

さっきのご質問に関連してですね。私も仕事柄、若い方のグループに顔を出して、また、いろいろお世話させて頂くことが多いんですが、だいたい始まりは懇親から始まって、お互いに酒をくみかわしながら、身の上話をするといいことからは始まるんですが、まず懇親型から始まって、次はだいたいの勉強型になる、一緒に一つ勉強しましょうやということになって、だんだんとグループの結束が強くなって、その勉強の結果が次は実行

型になる。だいたい、そんな段階を経ながら、若い人たちの組織がどんどん、どんどん盛り上げていくのを経験しておるわけです。

私は、見ておりました自分自身が、みんなが主役だというつもりで、グループをつくられて非常にいいなということ、私は経験なりに感じております。今日のお集りが、みなさん方、本当に主役だというよきなつもりでここまで盛り上げて来られたことは、たいへん私うれしく思いますし、また、皆さん方になければできなかった。国会議員3人呼び出すなんて、なかなかこま、とてもいい着想で、たし、みなさん方だからこそできたんじゃないかという気がします。

私、こういう会へ出たとき、感じることもなんですが、アメリカにマクノマラさんといって、昔、國務長官なんかして、その後、世界銀行の総裁をした人がいます。その人の言葉なんです。私の前に2つの道がある。1つの道は既に通ったことのある道、もう1つは、まだぜんぜん通ったことのない道だ。私の前に2つの道があるときに私は、これから前に進もうかというときに、だいたい通ったことのない道を進むことにしているんだと、そういう話を彼がしていたんです。通ったことのある道は、だいたい見当もついていますし、どんなことが起る。どうすればいいと心がまえもできてるわけですが、通ったことのない道は、本当に何が起るか分からない。しかし、そこに新しい発見がある。新しい体験があるし、新しい道が開かれる。“私はそれを選んでいくんだ。”ということをおっしゃれたか、たんぱるうと思わんです。

やっぱり、若い人ってというのは、何者にも負けぬ情熱をもっていますし、何者にも負けぬ行動力をもっているんで、これからも新しい道を歩んでいただくとお願いしたいと思っております。

以上です。

(日隈)

ありがとうございます。だんだん勇気がついてきます。一番、最近思いか、キャンセルのご迷惑を福岡先生にいかがですか。

(福岡)

今、いろいろお話し聞いておりました、私、痛感しましたわけですが、私、50才過ぎたところですが、どちらかといいますと、私が井戸をもう年代層といふのは、40代、50代、60代、70代の方が、多いわけはないかと思っておりますが、20代、30代の方との井戸がどうも少ないんじゃないかと思っております。

こういった会合をもうして頂きまして、若い人が何を考え、何を要望しておられるのかというのを聞くチャンスとしては、最適の場所だと思っております。

いろいろ、20代、30代の方の若い層の生の声を聞きまして、私、これからの問題に取り組んでいきたいと思っております。特に、市町村関係、この地方自治体といましては、昭和50年代までは、社会福祉事業が、なんか重点政策的に動いておりました。55年後半から59年に入りましてこの地方、地域活性化といふものが、重点政策に移っているんじゃないかと、思っております。当然、社会福祉事業と並行しての問題でございます。

その上から、お聞きしましても、国会議員の人がこういった公開の場で、その地域の活性化の問題について、その地元に住んでいる方のお話を聞くという事は、非常にいい面があるんじゃないかと思っております。この様な会合をここにだけな他にも、もういろいろこれからも勉強させて頂きたいと思っております。どうぞ、よろしくご指導の程をお願い申し上げます。

(日隈)

どうもありがとうございます。こういふふうには3人の先生方が、これからも続いてこの西中国山地でニコポジウムをもちと、いふふうに言ってくれましたけども、さらに自分たちで勉強していくとおっしゃられました。そこで、みなさん方がこれからたいへんですよ。干代田のように度量のある町長さんと度量のある故老の人たちのそして、干代田に精神豊かな若者たちが、そろっているとこそはいいですけども、ぼやぼやしているところも、憂国としては大物過ぎますよ。いいですよ。

さて、次、ちょっとするとこの町に行くかもしれないといふところの青年の代表の人が質問します。大朝町です。おもしろい人ですよ。聞いて下さい。

(大朝)

大朝町青年会々長しております。白砂といいます。今日は、町の大事な行事であります文化祭を途中で抜けて来ましたが、たいへんこのステージの上ですばらしい意見、聞かせて頂いております。本当はそこへ上っていろいろ言いたい放題言わせてもらえば、ほんとすごくよかったと思っておりますけど、何んか新しい政治は、このステージの上から生まれてくるんじゃないかとそんなふうな超党派、党を越えてですね。3人の議員の先生方、ほんとに地域の我々の西中国山地をいろいろ深く考え下さっているということを知りまして、ほんとに心強いといふか、うれしく思っております。

用意して来た質問というのが、だんだん話がすごく煮詰まって来たような気がするんですよ。で、ぼくが聞こえていたという問題が、だんだん今の話の筋の上でね、なんといいか用意してたのがダメになったので、違う質問をします。



このステージの上で、国際とか中央の一番すんだお話を聞いておるわけなんでおけど、これを受け止める受皿ですね。地方の町自治ですかね。うちのといふか隣の町とかいえるおりますがですね。行政、町村の議員の選挙とかいえるおりますがね。豊平町の伊藤さん来ておられますけども、地域全体の援助とか、親戚援助とかそういうもので、支配されてるような気がするんですね。それを中央でどんなにクリエイトイブなというか、いい行政をしようと思われてるのか、地域どね。その人気競争戦じゃないですけど、そのような状況がいつまで続くんでしょう。

本当にいろいろ考えて行動したいと思ってるのに、その受皿がいつまでそのような状態なのですか。

すごい、本当にたいへんな問題だと思います。その展望というか、いろいろ聞かせて頂きたいと思います。よろしく願います。

(日隈)

豊平のコータローさんは本当に肩身の狭いっていうか、有名になつて良かったという顔をしてますけど、本当はこちらに町村議会の議員さんがいらっしやるから、そちらに聞いた方がいいんでしようけど、一番いい結果は日本で最高の議員さん違いかでございませうか？町村の政治、あるいは議員さんの福岡先生の方からいつてみましょう。

(福岡)

えーと、この問題はやはり私自身もちよつと答えにくい面も多々ございまして、今おつしやつたように市町村議員の方がいらっしやれば、それがその方に対応していただいたら、いかがかと思つておるわけでございます。やはりあの市町村議員もそれなりの、やはり全力をあげておやりになつておられますので

それなりのお考えをお持ちですし、最大のベター、やはり地元の選挙民の方に全力をあげてやっておられると思います。私の方は、そういう市町村議員の方と手を取り合っているいろいろな国政の場で活躍させていただいております。やはり市町村議員の方からの意見もいろいろ私の方にいただいております。それを国政の場とどうつないでいこうというのが、我々の任務だと思っておりますので、私自体ご批判はちよつと受けかねるわけがございますので、まことに恐縮でございます。ご了解願いたいと思っております。

(日隈)

ということでございます。しかしまあ人共聞いてみましようね。岸田先生ご回答むつかしいですか。

(岸田)

ハイ、あの、国によっていろいろやり方があるんだな。と最近勉強しまして。たとえばアメリカへ行きますと、市町村の議員さん、とても数が少ないんです。で、そのかわり一人に一人にスタッフを付けてましてそして勉強しながら、その町の大きな行方を考えていくというようなやり方もありますし、それからあの日本みたいに一区代表というような格好で沢山の議員さんで議論されるというやり方もあります。いろんなやり方があるなという-----。

まあ日本の市町村議員の制度は、長い伝統を経て固つていたわけでございます。議員さんそれぞれ勉強して努力しておられるわけですが、今ご意見が出ましたのは、それが本当に生きた意見になっているか、それから町村の住民の気持ちとピタッと合っているかどうかということが一番気がかりだと、おそらくそんなことをおつしやりたいんだらうという気がしながら聞いていたんです。それが、私にとっては町村議会に傍聴を

の問題はですね、充分議論を尽くしたならば、私は党派をこえてですね、いつでも出るし私どもも党派をこえて、協力することが議員の責任であると、こういうふうに私は思っておりますので頑張つていただきたいと思ひます。

(日隈)

どうもありがとうございました。さてここで若事会が出ましたし、青年団も出ましたので、ここで高齢者学級といきたいんですけども高齢者学級の人はいないような気がする。若い人ばかりですね。高齢者学級の人はいないような気がする。お約束の時間まであと6分しかありませんので本当に3人の先生方には手短かになるんですけども、私の考える西中国山地ビジョンというようなのをカッコよく、私ならこうしたいというような話をさせていただきたいんですが、これは後になるほど有利つていう、そういうハンデいをこえてですね、手を挙げていただきたいんですが最初に挙げる人は、ハイ回転が早いということになりますが、ハイ、ではさすが福岡先生どうぞ。

(福岡)

産業行政と交通行政、及び農政との調和を求める。こういう政策でございます。

(日隈)

どうも、は一早かったですね、30分、では岸田先生。

(岸田)

あの全国各地の中でこの西中国山地つていうのはおそらく一番特色としては兼業農家を背景とした新しい町づくりのおそらくモデルになる地域だろうと思ひます。農林関係の優秀な方々が一諸に広島の農業を作ろうという本を作ろうじゃないか、これはおそらくこれからの日本の将来を占う本になるよというようなことを言つてくれます。私はここで日本の農林、山村

のやっぱり将来のビジョンのモデル作り。ぜひみんなと力を合  
わせてやっつけていきたいと思っております。

(日隈)

どうもありがとうございました。

(大原)

最後ですが、あの夜はこの間天満屋へ行きましたね。広島各  
地ですぬ名産の即売会がございましたんで、どういふものが  
出とるんかと行きましたらね。芸北の方からはヒリメケ、芸北  
町のそばとかね、高原野菜とかね、あるいはですね、戸河内か  
ら何でしたかね、いろんな物が出てるんですがね。ちよつと大  
分なとは、一村一品運動やってますがね、非常に広い地域でや  
っていると思うんですがね。ちよろちよろ、と土産物が出てい  
るという具合ではね、これはやっぱり特色を生かした適地適作  
といいますが、特色を生かしたですね、そして将来発展性のあ  
るね、そういうものとあまりつながっているという感じが私は  
いたしました。ですからそういうもので技術革新との関係あり  
ますけれども、農業の技術革新の関係あります、ありますけ  
れどもですねやはり、この地域ではですね、農業や林業や畜産  
業等を基盤として何をするですね、作り上げていくかということに  
ついて常に追求をしてですね、交通通信機関が発達しているわけ  
ですからこれを売り込んでいくことをしたいと、このところ  
を交通通信、高速道路が通りすしても素通りをしたり、ここか  
ら絞られてい、たりすることになると私は思います。そういう  
面においては、交通コミュニケーションが発達するということ  
は、一つの武器ではございますけれども、必ずしもこのこと  
がですね、結果として立派な町作りにつながる。こういう  
気もちがいたしますので、そういう点で、そういう条件作りで  
は国の政策ですから皆さんも一つ勉強続けていただきたいと思います。

どのくらいしておられるのかなというのを聞いてみたら、ほとんど傍聴に行かれる方はないのが普通のようにございます。やっぱり本当は我々が選んだ議員さんが、どんなに活躍してもらっているかなんてことを、やっぱりお互いに気になりながら、つていう習慣をもつとつてつけていったらいいと思うんです。そしてまた、議員さんの方もはりきって、よしよしおれも勉強してつていうふうに、だんだんいい方に、歯車が回っていくような気がするわけでございます。いずれにしても、やっぱり自分で選んだ議員さんでございますから、やっぱりしっかり応援して、しっかり勉強してもらえるように教励していただきたい、それが第一歩じゃないかと思えます。

(日限)

どうもありがとうございます。傍聴して下さいよ、皆さん。選ぶのも監視するのも皆さん方だということなんですね。さて、一番時間がかかりましたから大原先生がすばらしい回答をしますよ。

(大原)

あのですね、今の日本の政治の一番の大きな欠陥は陳情政治です。陳情政治、教百万円の補助金をもらう為にですね。町長さんや議員さんが自分の、この責任じゃありませんけれども、中央へ行つてですね、そして農林省、厚生省、そういうところの補助金をもらつてくるんです。しかし、たとえば厚生省の中でも局が違いましても、法律が違えますと別扱いということになります。こういうことではなれに、これをですね、思いきつて地方に分権いたしまして、地方で大まかなこの問題についてはやつてもらおう、というわけですね。地方の自主性にまかせるような方向に、そしてそこに住民の皆さんがこういう形に参加して行く。分権と参加ということがですね、行政改革の一番大

きな基礎でございませうから後藤田長官のもとで岸田副長官、いや次官がやられるのですから、しっかりと行政改革をしてもらいたい。これは宮沢弘さんですね、ご親せきにあたると思うんですが、岸田さんの親せきの宮沢弘さんですね、あのつねづね、そういうことははっきりした考えから言っております。そうしたならば節約ができて、それとまかされた経済の中でいやおうなしに議員さんも所の支持者も勉強してですね、ここでやることのできるのではないかと、そういう取組みを作ることは行政改革ではないか、あるいは地域の住民のニーズに応ずるのではなく、そういう主体性のある政策をとることのできる、そのことをやらなければ私は21世紀を生きぬけることはできない。ということですね、自治体なりその地域というものが一つの主体性、自主性を発揮しなければですね、転換のしようはないわけですね。上からきた一方のことだけをですね、見てですね、それ以外は補助金がいくとかいにかんとかね、勝手に官僚が考えるような、そういう政治を続けておきますと日本はダメになってまいります。ヨーロッパ、アメリカ等の自治体がしゃんとしているということですから民主主義は自治体ですから、そういう意味において自治体の改革を含めてですね、政治を改革していかなければならぬ。地域の問題になりますと議論が尽きましましたらですね、それは党派の間におきましても共通項、共通のもの、議会政治、私たちがけんかをしているように見えますけれどもですね、それはけんかしているけれども、その中から共通項が生まれてくるんです。非核三原則とかねGNP1%の軍事予算とか専守防衛とか、それは憲法とか安全保障条約とはとびこえて一つの原則が出てくるわけですから、ですからそれは不要の議論のように見えますが、やっぱり高いところで統合していくというのが政治でございませうから、そういう面において私は地域

う希望でござります。

(日 隈)

どうもありがとうございます。さて農業機関に交通の便利  
な手段に、農工両立の町づくり。福岡先生とうおっしゃいま  
した。内陸部のモデル町、モデル町村に、という。岸田先生と  
うおっしゃられました。そしてそれが日本のモデルになるよう  
な素晴らしい二十一世紀計画をというように岸田先生おっしゃ  
られました。そして最後に大原先生が各地の知恵を生かした。ふ  
るさと作りというふうにおっしゃられたように思います。この  
三人の先生の知恵をですぬ。本当に実現できたら素晴らしいこ  
とになりそうです。実現できなかつたら三人のせいですぬ。

それでは、あと二分あります。この壇上に同じ所々一メー  
ルおきにゆくゆくして座、たという青年たちに一言づつその感  
想などを話してもらいましょう。ミス中国山地りかがですか。

(筒 賀)

いつも私たちが心の中で、どうかと思って、いる問題を、直  
接先生方に聞いてとてもらうしか、たです。そしてとても励み  
になりましたので、これからもうよろしくお願いいたします。

(日 隈)

人が少なくなつても心配しないで下さいよ。筒賀で頑張つて  
保母さんやって下さい。さて農林業を指導しているコータロー  
さん。

(豊 平)

ずいぶん勉強になりました。いい人生の記念になる、たんじや  
ないかと思つた。

(日 隈)

また、明日にでも高齢者学級に入つてやって下さい。さて吉  
田町の井田さん。どうでしたか。

(吉 田)

二時間とてむせりてくは二時間を過ぎさせていたいただきました。ありがとうございます。

(日 隈)

さすが、文化の香りが高いですね。言葉使いが本当にしゃれてます。さて、わかりませらやいけません。会長。最後の言葉ですから。

(十 代 田)

感想ですね。さ、いろいろ楽し、意見なり聞かせていた。いただいたわけですから。農業においても、企業においても、そして社会教育においても、広域的な範囲で考えていこう。そういうふうな意見がいろいろ出たふうに思います。そして私たちがこれから、15ヶ町村・西中国山地ステップ会議の中での活動で、今日二時間いろいろな勉強をさせていただきましてわけども、これを出発点として、これから地域のことなり、自分たちの人生なり、いろいろ考えていきたらというふうに思います。これからよろしくお願、します。

(日 隈)

さすが、会長さんですね。2世紀は彼があそこに座っているかもしれないですね。さて本来ならコーディネーターがここですとめなぐらやいけるんです。結論を出さなぐらやいけるんですけれども、この会が続くんです。来年も、さ来年もずっと続くとお、しゃりますから、止められなくなりました。止められなくてもギャラが同じなのかというも、ここはギャラを払わせる所でございますので、このさす可会の人にバトンをお返ししたいと思、います。

(三 宅)

どうもありがとうございます。以上をもちまして、公開討



論会「クリエイティブふるさと 3&15」を終わらせていただき  
ます。本当に御登壇いただきまして先生方、また青年の皆さん  
には、長時間にわたり有意義なお話をいただきありがとうございます  
ございました。また今日可会進行をうとめていただきまして日  
隈先生には、実はこの会の企画の最初からず、と御参画いただき  
ました。町内の各地区にも足を何度も運んでいただきまして。おこ  
げをもちまして今日こうや、て大事業が無事済みしましたことと、  
関係者を代表しましてお礼申し上げます。どうもありがとうございます  
ございました。それから長時間にわたり何かとお忙しいところ。  
この会場に足を運んでいただき御静聴いただき皆さん、どうも  
ありがとうございます。本日のこのステージで話し合いました  
ことと、私たち15ヶ町村の青年が、またその地域に住んで  
いる皆さんと一緒に手を取り合、て素晴らしい町づくりを考え  
ていきますと思っております。こうや、て15ヶ町村の青年が企画しま  
した大事業、なんとか済んでゆけますが、今も話がありました  
ように、来年、そして来々年と一所懸命頑張、ていきますので、  
これから御支援の程とうぞよろしくお願い致します。それでは  
最後になりましたが、もう一度御登壇の先生方に大きな拍手  
を送、ていただいて、この会を終わりにしたいと思っております。ど  
うもありがとうございます。

# メッセージ

## ———— 未来に向けて ————

この時代に生きる我々、人類の未来をどうにか  
 していかねばならぬ。そのために、我々が  
 しなければならないことは、決して少なく  
 ない。それは、科学の進歩を止めること  
 ではない。むしろ、科学の進歩を促進し、  
 人類の幸福のために活用することである。

科学の進歩は、人類の生活を豊かにする  
 ための唯一の手段である。しかし、科学の  
 進歩が、人類の生活を豊かにするだけでなく、  
 人類の生活を破壊する恐れもある。それは、  
 核戦争の脅威である。核戦争は、人類の  
 存続を脅かす最大の危険である。

核戦争を防ぐためには、我々が協力して  
 努力しなければならない。それは、核戦争  
 を禁止する条約を締結することである。また、  
 核兵器の開発を制限することである。我々が  
 協力して努力すれば、核戦争を防ぐことが  
 できる。

核戦争を防ぐだけでなく、人類の生活を  
 豊かにするために、我々が協力して努力し  
 なければならない。それは、環境保護の  
 ための努力である。環境汚染は、人類の  
 生活を脅かす最大の危険である。我々が  
 協力して努力すれば、環境汚染を防ぐことが  
 できる。

—メッセージ—

修道大学教授 日隈健壬

21世紀の幕を開くキーワードが通信衛星から送られてくる。今、地球は一つのステージ、宇宙に浮ぶ円形舞台になった。

地球上の都市には人々の80%が集中し、野や海のマチには、週末の人々が集う。農村と都市が空間だけを分け合って、人の暮らしは同質化してしまっている。まさに日本は、高度情報化時代に入ると、住むところは高密度のトランスポートレーション（輸送手段）でネット・ワークされている。

人々は、暮すところを選び、住む。住むことにより、棲み分け、文化をつくる。山には山の、海には海の文化があり、更に耕す。耕す（カルチャーバイト）ことこそ文化なのだ。

千代田が人の行き来を取り戻して、百年を過ぎようとしていた。

明治の、近代文明が幕を開けたとき、全国的にそうであったが、広島のは更に厳しく、千代田は極貧の地であった。

“武一騒動”を現代に透視する。国策という名の許での暮らし、百姓する。工業化する。荒廃する田畑、退廃する人の心。

風と土と人と、ドライステイクに変わっていく農村風景。

武一から百年。今、千代田の若者たちは夜度十哩を走り、芸北、山県、ちり町村の青年達と交流する。農を語り、暮しを語り、愛を語る。

彼らが、常に自分自身を拓いていくとき、広く仲間たちが集う。

武一は、今、広島の家々の戸を破ることはない。夜毎、広島から人々が訪ねてくる。行政の、学者の、青年たちの。

とうとう国政を預かる者のろ人が、ムラに現われた。小さなムラ起し運動が渦になったのだ。青年たちと、その先輩たちが

輪になつて、渦が彼らを呼び込んだ。

「農業を柱に」、「農業と工業のバランスある発展を」、「今、千代田は高速道路をもってして中国地方の玄関になつた。」

先生達の言葉には空々しさよりも、やはり真実があつて、何よりも愛があつた。

生きなければならぬ。そのためには、やらなければならぬ。一度きりの人生だから、後世につながなくてはならぬ。連帯しなければならぬ。エキサイティングに、若者だから。

くすぶつて  
炎となつて 21世紀

S・I

21世紀をどう考える。

国際社会の中の千代田をどう考える。

そして

西中国山地ステップ会議。

国会議員3名とのディスカッション。

何を千代田は得たのだろうか。

何を青年は、つさんだのだろうか。

何も形あるものは残らなかつた。

ただ

14ヶ町村の若者達を知つたこと、3人の国会議員が千代田に集つたことだつた。

観客席から1984年秋を見た人々にとっては、この辺が評価だろう。たぶん。

しかしながら、21世紀を間近にひかえ若者達は、国際社会が、ヒマヒマとこの山間地域にも侵透していることを感じ、一方で高齢化社会を辿っている千代田の実情をまの当りに見て、その青春を未来への千代田へ向ってかけ出したのだと私は思う。瀬戸内のある町は、エーゲ海を目指し、山間のある町は、留学生制度を持ち新しい出発をする情報は、もうすでに新しいものではなくなった。

今、個人も地域もその個性や特性を見い出すことにダツニユしている。こうした中、2回までの文化祭を基盤として、千代田がより千代田として輝くために千代田の殻を破り、千代田だけで考えるのではなく近隣町村と共に手をつなごうとした試みが、かつてない行事として仕上げられたと思います。

結果は何も残らなかった。

でも人と人のつながりが広くなった。千代田であれだけのことが出来た。この意気込みは、まだ心の中のものであり、多くの人々に理解を得るには至らない。しかし21世紀、国際社会、高齢社会は、まちがいなく来るこの時大いなる力となるであろう。その時、大きな炎となって燃えるであろう。

一つの炎も、小さくくすぶる煙の中から燃え上るのだから。

## —西中国山地の中の千代田—

千代田町青年連合会 伊勢坊 誠

私が、西中国山地という名前を耳にしたのは第13回文化祭がきっかけであった。それまでは自分の住んでいる地域は山県郡だということしか思っていないが、いい機会に恵まれて西中国山地の中の千代田町だということを知強らせていただいたことに感謝している。

西中国山地は、100万都市広島をしたがえたいわば都市近郊地域になってきた。中国縦貫、横断自動車道の開通を始め、工業団地の造成にともない企業誘致を進めるなど、ここ数年めまぐるしく変わってきた。これらも含め西中国山地の中の千代田町をいろいろな角度で、広く考えてみたい。

千代田町は表面的には他の西中国山地の町村にくらべ、数倍の速度で発展していることはまちがいないが、全体的に見てこれは喜ぶことなのであろうか。

確かに交通網の発達や産業の発展に必要なものであろう。大都市との時間短縮は昔から私達の願いであったにちがいない。

都市には病院や文化施設、デパートがあり、そこには流行があり若者の心をとらえやすい環境が整っている。もっとも良い所は生活の基本となる仕事が豊富であることだ。だが、昭和48年の第一次オイルショック以降経済は低迷し、都市集中型から地方分散型へと徐々に変わってきたこともまぎれもない事実であるし、くわえて、地方の時代という名刺が日本全国を駆けめぐり、あたかも中心は地方に移ってきたかのようにマスコミは騒いだ。しかし、地方の時代ということばとはうらはらに交通網の整備などを見ても、いまだ都市集中型にはまちがいないし、企業誘致にしても企業側からみれば設備投資をしようにも都市ではままならないから地方に出てきたという程度のものではないか

ないわけである。

昭和元録ということばが、高度成長期に語られたが、これほどの高度成長は今後見込まれることはまずありえないといっている。なぜかという日本歴史の中で、この様な経済成長をした時代は、元録時代と昭和40年代しかないことをみてもあきらかだからだ。

では、経済成長が望まれない時に、西中国山地はいったいどういう進路をとればいいのかのだろうか。

私達青年が、今、もっとも関心をもって考えているところは、この時代だからこそ西中国山地の中の千代田町がどういう生き方をすればいいのか、ということと、この地域の文化意識をどのように育てていくかという2点が、一番大きな目標だと思う。

第13回文化祭を終えて、このことをだれよりも切実に感じたのは、ほかならぬ青年達であったのはまちがいないだろう。

### — 西中国山地ステップ会議を絶やすな —

豊平町青年会 伊藤立真

まず、千代田町の文化祭にはじまった“西中国山地ステップ会議”をここまで大きく、そして実行された千青連の会長以下皆さんに「すばらしい体験をありがとう。」と言わせてください。

すこし大げさかもしれませんが、今年の秋ほど「地元にかえってきて良かったな。」と思つたことはないような気がします。今まで町のあることは知つてたけれど、その町に住む同年代の若者を知らなかつたですよね。それがどうぞレよ、たつた数ヶ月のうちに、友人達と言えるようなつきあいができるようになりました。それも郡を越え、県を越えてです。

こうした若者が自ら活動して開催した自力のパネルディスカッションだから、国会議員の先生方もいろいろとお忙しい中、千代田町へこられたのではないのでしょうか？先生方をはじめ、地元の人たちも今回のディスカッションを通して、地元の青年達のことを知りたいから、期待しているから、多く集まってくたさつたのではないのでしょうか？

私はそう思い、感じているから、この西中国山地ステツフ会議、大事に育ててゆくべきだと思います。

昨年のさまざまな企画は、多くが初めてのことで、100%うまく行くなんてことはありませんし、必要ありません。これから、回を重ねるごとに、良いところはいつまでもそのままに、良くすべきところは一回に一つずつでも増してゆけばいいと思います。

今、一番大切な事は、できたばかりの“西中国山地ステツフ会議”を絶やすことなく、いつまでも生かしてゆくことではないのでしょうか？

—グリエイティブふるさとand15.に参加して—

筒賀村 片山 みちえ

私は、この会議にパネラーとして参加する事を引き受けたものの、はたしてこの大役が務まるかどうか、とても不安でした。

原稿づくりにおいても、「国会議員の先生方に質問する」という事で、それなりに内容の濃いものをもとに思案したため、いろいろ苦労しました。そんな思いの中、青年会の人達の協力や励ましがあり、なんとか前の日までには原稿を仕上げる事ができました。

しかし、当日の朝の受ち合わせ段階で、「せっかくのこの場も、もっと活用できるような質問内容に…」という日隈先生のアドバ



イスがあり、急換内容を変更する事になりました。今まで何日もかけて書きあげた原稿が今回発表できなくなったのは残念でしたが、この原稿づくりのために身近な人のお話を聞いたり、勉強したことは私にとって良い経験になりました。

実際、私の地域の事についてこれほどまでに真剣に考えたことはなかった。なのでこれを機会に、まず私自身、地域の青年会活動に対して、もっと積極的に取り組み、この体験を生かしていきたいと思えます。

おわりに、この会議を実行するに当たり、毎晩遅くまで活動されたみなさん、たいへんご苦勞様でした。

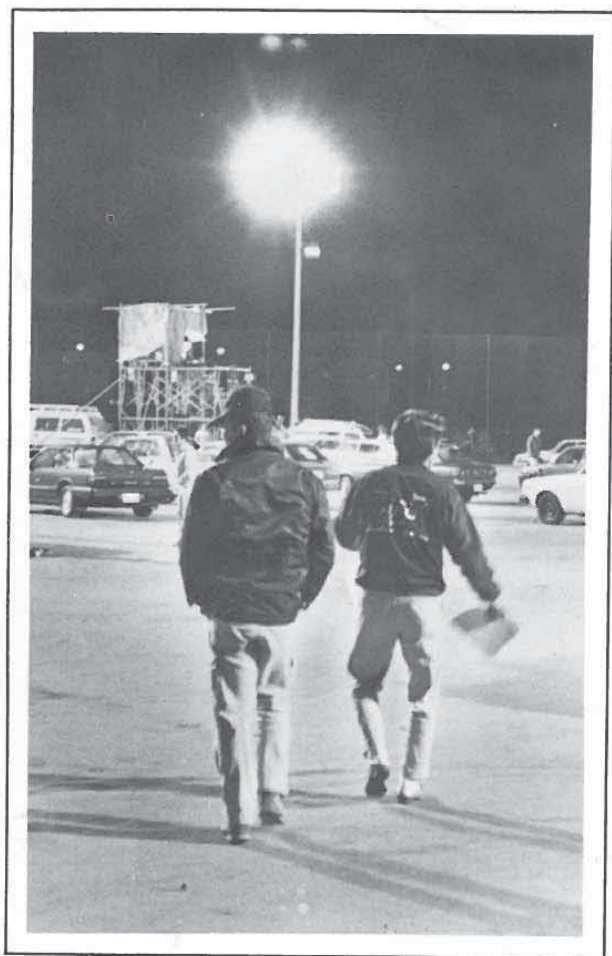


「おわりにあたって」

西中国山地ステッフ会議からはじまり、クリエイティブふるさと3 and 15で締めくくった一連の行事について、なぜやるのか。そしていつたいどういうふうによればいいのか。スタートした時点では全く白紙の状態でした。それを多くの時間をかけて、ああでもない、こうでもない、と話し合いながらともかく進めてきたというのが本当のこゝとです。幾度も軌道修正を余儀なくされたり、時にほえい、まよよと見切り発車をしたりして進めてきたこの行事は、今振り返ってみても決して安楽なものではなかったように思います。

この行事の成果は前に述べているとおりですが、何よりも多くの失敗をした。はずかしい思いをした。せんでもいいことをした。くだらない議論をした。これらをひっくるめて大きな経験をすることができたことを私達はうれしく思います。

最後に行事全般を通して、あらゆる面でご指導いただいた、日隈先生をはじめ、各議員の方々、趣旨に賛同していただいた他町村の青年の方々、そして公民館の方々に一言。「ありがとうございました、本当に-----。」



ふとふりかえり  
歩いてきた道を確認する  
出逢い 語らい  
何かを創ろうとしながら  
また歩きはじめる

——Thank you!!